

部 報

平成19年度 No.53

北海道大学馬術部



◇目次◇

巻頭書	井上 京	2
前主将より	住江 康晴	3
活動報告		4
戦績報告		8
調教報告		
北彗号	宮本 亮	17
北鳳号	吉村 誠司	18
エルグレイ号	住江 康晴	20
北翔号	谷口 善彦	22
北椎号	小島 真宏	25
北閃号	山川 倫明	27
北遥号	住江 康晴	29
北煌号	谷口 善彦	32
北創号	一色 真明	36
北柊号	谷山 直美	38
ネイチャーヒーラー号	山川 倫明	41
北旋風号離厩特集		43
入厩報告		
サクラフォルツァ号	宮本 亮	50
OB寄稿		
イギリスの学窓から(馬といろいろな雑感)	近藤 喜十郎	51
北彗と北鳳の調教過程から考えること	木村 滋之	55
北大水産学部馬術部活動報告	池谷 雅史	61
卒部にあたって		63
部員紹介		65
OB名簿		74
現役部員名簿		85
編集後記		

部長 井上 京

個々の部員達の目標は、また競技団体としての北大馬術部の目標は、全日学に出場する、そのために北日学でゴールし好成績を残す、ということであろう。秋の役員交代以降、翌夏の北日学、そして秋に続く全日学をめざし、部員達は練習を重ね馬を調教し、部の運営管理に汗水を流している。その労苦があつてこそ、北日学や全日学の成績にもそれなりに納得し、新たな努力をまた重ねていく原動力となっていたはずだ。

ところが平成 19 年度は、夏の馬インフルエンザの発生流行により、北日学が延期、その後中止という事態になった。幸いなことに北大馬術部の繋養馬への罹患はなかったものの、北日学に向けて努力してきた部員達の無念はいかばかりであつたろう。競技会出場がかなわなかった上級生はむろんのこと、夏の北日本学生独特の雰囲気を経験したり他校との交流ができなかった下級生にとっても、残念なことであつた。わずかに二名の最上級生として、このような状況の中で部を引っ張ってきた住江君と谷山さんの労を多としたい。また後輩達は、いろいろな意味で競技会のあることのありがたさ、馬の健康管理の重要さを、今一度認識して欲しい。

12 月に行われた全日本学生馬術選手権大会で、3 年目の谷口君が惜しくもベスト 8 入りは逃したものの、9 位と健闘した。今後の活躍と一層の精進に期待したい。

平成 5 年に 3 歳で入厩した北旋風（トルネードダンサー）が、10 月 6 日、惜しまれながらも離厩した。15 年の長きにわたり、北大馬術部の屋台骨の一つとして活躍してくれた。武骨ではあるが、勇猛果敢。固い馬体を精一杯使って乗り手の指示に応えようとする愚直さは、まさに学生にぴったりであつた。いまは乗馬クラブメインフィールドで余生をおくっている。これからも皆に愛され続けることだろう。

平成 19 年 4 月 12 日、東京 OB 会の東園基文名誉会長が逝去された。享年 96 歳。平成 20 年 1 月 19 日、氏の永年の馬術界へのご貢献に対し、日本馬術連盟より功労者表彰が贈られた。氏は昭和 6 年北海道帝国大学に入学後、文武会馬術部に入部し、同年の第三回全日本学生馬術選手権大会に優勝。翌昭和 7 年の第四回同大会でも準優勝に輝かれた。昭和 7 年度より主将を務め、馬術部の要として活躍するとともに、卒業後も自ら後輩の指導に傾注された。戦後は北海道大学体育会馬術部の後援会副会長のほか、昭和 34 年からは東京 OB 会の会長および名誉会長などを務められ、馬術部への支援と指導に尽力された。学習院でも櫻鞍会会長として指導され、とくに今上陛下をはじめ常陸宮殿下にも馬術指導をされたとのことである。北大馬術部によせられたご芳情とご功績に衷心より感謝申し上げ、謹んでご冥福をお祈りいたします。

◇前主将より◇

住江 康晴

まず今年の主な成績ですが、全日二走3頭、総合1頭と部の目標として掲げた全日団体出場を達成することができました。そして今年の主な出来事として取り上げざるを得ないことは馬インフルエンザの流行でしょう。この流行は全国各地に大きな影響を及ぼし、私たちには北日の中止をもたらしました。そのおかげで全日の枠を話し合いで決めるという異例の事態が発生し、人馬にとって貴重な経験の機会を失うと同時に、他の多くの大学も含めて私たち4年生にとって今までの部活生活の締めくくりとなる最後の大会を奪い去ってしまいました。このことは非常に残念でありませんが、そのなかで全日に馬付きも含めて多くの人馬を送り出して無事終えることができたことはせめてもの救いだったと思います。加えて、お酒の事件を忘れてはならないでしょう。幸い、大事には至りませんでした。様々な方にご迷惑をお掛けし、また大学からも厳重に注意を受け、これからの部の飲み方というものを見直すことになりました。

主将としては日々力不足を感じながら、北日延期、中止、全日と後輩たちに我儘を言わずと現役を延ばし迷惑だったかと思いますが、それでも最後まで努めることができたのはドンパや先輩、後輩、部長の井上先生をはじめとするOBの方々、関係者の方々にご迷惑をおかけしながらもご理解とご協力を頂けたからであり、この場を借りて深く御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

大なり小なり毎年何かとある馬術部だとは思いますが、今年は例年にないほどの一年だったと思います。そんな一年と一緒に経験した後輩たちだからこそ、もう多少の出来事には動じず対処できると思いますし、それぞれの代の一人ひとりが悔いの残らないように頑張ってください。

◇活動報告◇

【主将】

宮本 亮

代が替わり、現在部員数は3年目6人、2年目8人、1年目8人の計22人となっており、繋養馬匹は12頭となっています。現在は馬の頭数と部員数とのバランスは比較的良い状態であるといえます。

昨年は一言でいえば馬インフルエンザにかき回された年でした。人、馬、どちらにおいても休まるどころがなく、漠然とした期間を過ごさなければならぬこともありました。せめてもの救いは全日が開催され、形の上では一年の区切りが付けられたことでしょうか。

今年はまだ一度気持ちを新たに、北日という大目標に向かって部全体で邁進していきたいと思えます。

今、ここで書いておかなくてはいけないことがあります。それは飲酒に関するものです。昨年の全日壮行会において未成年部員1名が急性アルコール中毒のために病院に搬送されるということがありました。原因は大きく言えば部員全体の意識の甘さにあったといえます。幸い患った本人の体調は翌朝には良くなり、大事には至りませんでした。一歩間違えればかけがえのない仲間を失うということにもなりかねませんでした。結局この件は大学からの嚴重注意という形で形式上は片が付きましたが、あらためて飲酒の功罪についての認識を部全体で持ち直さなければならぬと感じました。

もう一つ、この部は常に馬に傷害をあたえる事故と隣り合わせであるということです。昨年は馬運車内で馬が暴れてケガをするということがありました。こちらも幸い大事には至りませんでした。場所は馬運車内であり、時と場合によっては「ケガ」だけですまされなかったものです。このような事故、そして一昨年北奏号の競技人生を奪った事故に代表されるように、部員は簡単に馬の命すら奪える状況にあります。馬を可愛がるだけが部員の役割ではありません。馬を生かすことの大変さを知っているからこそ、馬術部の部員は常に馬の安全も考えなくてはならないと思えます。何かの行動が危険につながるか否かにおいて、「大丈夫だろう」ではなく、時に「それをする事でどんなことが起こりうるか、そしてそのときに自分はそれに対応しうるか」という考えを持つ必要があると思えます。

人の事故、馬の事故、どちらも小さなミスで起こりえます。また同時に小さな心がけで減らすこともできます。失敗を部で共有し、二度とそのようなことが起こらないように努めていきたいと考えています。

【副将】

野村 基惟

馬術部という部活は、人と人の信頼関係・人と馬の信頼関係の2つで成り立っていると思います。学生だけで馬を管理していくという困難な部の運営のために、同じ志を共有する部員同士はもちろん、OBの方々や多方面でお世話になる方々に対しても信頼関係は不可欠なものです。同時に私たちは、自馬を愛し常に真摯な態度で接さなければなりません。人の態度は自然と馬に伝わるものであり、普段の管理から競技に至るまで、人と馬との信頼関係は馬術の本質に関わるものです。このような信頼関係は、一朝一夕に築かれるものではなく、当たり前のように思われる日々の丹念な1つ1つの積み重ねによってしか築かれません。そんな部活の中で、あるときは上級生、またあるときは下級生の立場で部全体を広く見渡し、部の目標達成に貢献していけるような副将を目指していこうと思います。

【主務】

山川 倫明

年度に引き続き主務を務めます。せっかくもう一年できることですし、前年の反省を生かし、改善できる点はしていかなければ、と考えています。

具体的に現在、計画していることは、半澤杯の運営での改善です。前年は参加者、参加頭数も少なく、盛り上がり欠ける大会でした。よって、今年は、魅力的な競技を増やしたり、近隣団体に積極的に呼びかけたりなどして、盛り上げていきたいと考えています。

【馬匹】

吉村 誠司

今年は馬インフルエンザに振り回された一年でしたが、厩舎の消毒、出入りの際の消毒、またウイルスを持ち帰る可能性がある場合は風呂に入り、衣服を替えてから厩舎に来るなど防疫を徹底した成果もあってか、厩舎内での感染はありませんでした。インフルエンザは終息に向かっているというものの、来シーズンも流行することが十分に考えられるので注意したいと思います。またインフルエンザの流行に際して入厩検査が厳しく行われるようになりました。昨年度の全日での過失もあり、二度と同じ過ちを繰り返さないよう書類の確認は念入りに、それこそやりすぎなくらいでなければいけません。

十月には北旋風号が離厩しました。寛ハ行の悪化が原因ですが、ハ行の改善のためにもっとできることはなかったのだろうかと思ったりもすることがあります。現在でもエルグレイ号と北翔号がいわゆる高齢馬ながらも活躍していますが、二頭が一年でも長く、そして若馬も末永く北大で活躍できるよう、体のケアには細心の注意を払っていききたいと思います。

今年もOBの方々には、相談に乗っていただいたり、馬を診ていただいたりと大変お世話になり、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。また今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

【飼料】

出戸 裕人

昨年とあまり変化なく、飼いはヘイキューブ約 1kg、燕麦約 1kg、ふすま約 0.3kg、パワーサプリ 25 約 0.1kg、塩大さじ一杯強を朝、昼、夕の 3 回与え、さらに乾草を約 1.5kg ずつ朝、昼、夕、夜の 4 回に分けて与えています。また、ヘイキューブは疝痛予防のため毎回ふやかしています。飼糧は明治飼糧さんから購入し、乾草は長岡さんからバイト代としていただいています。さらに、北大農場に 4 月と 11 月の 2 回ボロを回収していただいています。

現在は 1 番乾草と 2 番乾草を昨年より引き続いて分けることにより、蕁麻疹予防をし、また馬によっては油を混ぜています。

本年度も飼糧の質を保ち、細かく注意を払いながら取り組んでいきたいと思えます。

【後援会】

山中 謙司

現役部員と OB の交流の場として、例年 4 回のコンパ、OB 戦、初乗りを行い、戦績や部報、年賀状を送らせていただいております。

北大馬術部 OB は全国散らばっておられ、すべての方と交流を持つことはできませんが、なるべく多くの方と交流を持つために北大馬術部後援会によりホームページが作成されております (<http://hokudai-horse.xsrv.jp/index.html>)。

また、現役版のホームページ (<http://circle.cc.hokudai.ac.jp/horse/homepage/index.html>) も作成いたしましたので、こちらもご覧ください。

現在、E メールでのご連絡も行っております。郵送より早く、経費削減になりますのでメールアドレスをお持ちの方はご連絡くださいますようお願い致します。ご連絡は馬術部(TEL/FAX 011-737-1626)、またはメールアドレス (hokudaibajutubu@hotmail.com) にお願ひします。また住所、メールアドレス等に変更がありましたらご連絡くださいますようお願い致します。

【会計】

小島 真宏

今年度は北日学が馬インフルエンザの影響でなかったにもかかわらず、大きな赤字となってしまいました。原因としてはまず馬の頭数、特に新馬の頭数が増えたため、飼料代が大きく上がったことがあげられます。しかし新馬を育成することは今の北大にとって必要なことなので、飼料代を節減することは難しいと思われます。また部車(デリカ)の老朽化に伴い修理費がとてまかかりました。来年度は買い替えを予定しておりますが、そのときにもまた多大な出費が予想されます。さらに来年度は北日学が福島であり、またガソリン代の高騰により交通費も跳ね上がる可能性が大です。部の財政がこのような状況であることを OB の方々にもご理解いただき、是非ともご支援の程よろしく願ひします。

2007年1～12月 会計報告

収入の部	金額	支出の部	金額
部費	1,365,000	衛生	12,519
大会役務費	750,000	企画	60,187
モモセバイト	386,350	北日幹事	46,670
競馬場バイト	1,764,634	後援会	212,971
獣医バイト	146,000	交通	1,278,438
すずらん輸送バイト	62,000	作業	46,766
札幌競馬場セールバイト	75,000	車両	1,004,251
中曽根さんバイト	15,000	主務	400,444
ベスト電器バイト	26,200	飼料	2,272,936
セレクトセールバイト	190,000	装蹄	821,920
クラークバイト	20,000	大会関係	647,573
和種品評会バイト	55,440	電話料金	58,389
長岡さんバイト	5,000	馬備	42,494
フレンドリー料	351,000	馬匹	66,060
輸送補助金	56,000	ビデオ	68,686
飼育奨励金	12,000	薬品	564,375
学馬連補助金	1,140,000	雑費	89,904
全日補助金(北大より)	24,000	繰越金	2,689
体育会強化費	301,500	計	7,697,272
半澤杯エントリー料	201,000		
馬運車貸し出し料	50,000		
寄付	41,000		
学馬連優秀乗馬奨励金	20,000		
学馬連部員登録料立替	23,000		
部報広告費	37,000		
薬品立替	218,858		
体温計立替	55,575		
前年度繰越金	305,715		
計	7,697,272		

◇戦績◇

●第45回国立七大学総合体育大会馬術競技会(於 京都大学 3月10、11日)

参加選手	住江(4)	谷口(3)	谷山(4)	
☆1日目				取得点
住江(4)	京葵			5
谷山(4)	アポイリージ			1
谷口(3)	フェイバータッチ			3
☆2日目				
住江(4)	イボラ13			2
谷山(4)	メイショウシンリキ			2
谷口(3)	センテリアルウィル			2
☆総合				
優勝	京都大学			
準優勝	東北大学			
3位	北海道大学			
最優秀選手	井上(京都大学)			
優秀選手	長村(東北大学)			
	住江(4)			

●対東北大学定期対抗戦(於 東北大学 3月22日)

参加選手	野村(2)	村木(2)	平野(2)	武藤(2)	
☆馬場(2課目)					得点率
野村	オリオンボーイ				52.35
平野	ラ・カスターニャ				44.71
武藤	杜円舞				54.71
☆障害(スピードアンドハンディネス80cmクラス)					タイム
武藤	インターハント				97.08
野村	オレゴングレート				80.16
村木					103.62
☆総合					
優勝	北海道大学				
準優勝	東北大学				
MVP	武藤(2)				

●第13回岩手大学招待学生馬術大会(於 岩手大学 4月22日)

参加選手	小島(3)	山中(3)		総減点	タイム
1位	岩手大学			0	84.95
2位	北里大学			0	92.16
3位	北海道大学			4	92.32
4位	東北大学			4	107.06

●第35回半沢杯記念馬術大会(於 北海道大学 5月3、4日)

☆第2課目競技(市川杯)					得点率
1位	谷口	北煌	北大(3)		52.941
2位	住江	北遥	北大(4)		48.824
3位	田中	北鳳	北大(2)		45.098
☆ツースター					得点率
OPEN	谷山	北椎	北大(4)		44.931
	吉村	北鳳	北大(3)		44.583
	山川	北閃	北大(3)		42.917
☆複合馬術競技(太秦杯)				馬場減点	障害減点
場外E	宮本	北替	北大(3)	77.3	場外E

☆障害飛越競技120cmクラス(半澤杯)				減点	タイム
1位	住江	エルグレイ		4	81.21
☆障害飛越競技100cmクラス(河田杯)				減点	JO.タイム
4位	吉村	北鳳	北大(3)	4	35.28
5位	山川	北閃	北大(3)	4	40.96
☆障害飛越競技90cmクラス(小池杯)				減点	タイム
1位	住江	北遥	北大(4)	0	71.97
2位	武藤	北鳳	北大(2)	0	74.20
5位	谷口	北煌	北大(3)	0	83.24
11位	山中	北閃	北大(3)	4	71.70
5反E	小島	北椎	北大(3)		
☆障害飛越競技70cmクラス(井上杯)				減点	タイム
6位	村木	北慧	北大(2)	0	77.89
8位	野村	北遥	北大(2)	0	69.03
9位	真田	北椎	北大(2)	0	65.01
10位	内山	北遥	北大(2)	0	64.53
13位	斎藤	北煌	北大(2)	10	102.9
3反E	平野	北煌	北大(2)		
●3大学定期戦(於 酪農学園大学)					
参加選手	村木(2)	武藤(2)	野村(2)	減点	
☆個人成績					
村木	テノリオ			9	
武藤	マキシマムプレイズ			10	
野村	ウメニシキ			1	
☆総合					
優勝	帯広畜産大学			0	
準優勝	酪農学園大学			19	
3位	北海道大学			20	
●第21回北海道新緑馬術大会(於 ノーザンホースパーク 5月18日~20日)					
☆標準小障害飛越競技A					JO.タイム
1位	植月	柏爵	帯広畜産大学		42.10
2位	楠木	ホナベティ	ノーザンホースパーク		42.75
3位	城	ハイハート	フロンティア乗馬クラブ		44.02
5位	谷口	北煌	北大(3)		46.50
8位	山中	北旋風	北大(3)		49.51
45秒失権	山川	北閃	北大(3)		
☆標準中障害飛越競技I				減点	タイム
1位	森下	ミスターブルー	北星乗馬クラブ	0	59.88
2位	百瀬	ストレイルホーク	モモセライディングファーム	0	63.34
3位	小島	北椎	北大(3)	0	72.01
7位	住江	北遥	北大(4)	4	73.13
☆標準小障害飛越競技C I				減点	タイム
1位	稲垣	ロイスジュニア	ノーザンホースパーク	0	57.36
2位	五十嵐	ホワイトメロディ	ライディングヒルズ静内	0	62.12
3位	百瀬	ストレイルホーク	モモセライディングファーム	0	63.38
5位	斎藤	北遥	北大(2)	0	72.49
7位	野村	北椎	北大(2)	0	75.60
10位	内山	北煌	北大(2)	4	76.42
☆ノーマル標準中障害飛越競技D				減点	JO.タイム
1位	百瀬	ダイナータム	モモセライディングファーム	0	36.85
2位	吉村	北鳳	北大(3)	0	45.67
3位	阿部	ラインハート	RCメインフィールズ	0	49.96

☆ノーマル標準中障害飛越競技C				減点	J.O.タイム
1位	山田	バニラシェイク	北星乗馬クラブ	0	31.25
2位	楠木	シュティム	ノーザンホースパーク	0	32.57
3位	畠山	ダンテライオン	コンドウファームライディングジール	0	33.41
4位	谷口	北翔	北大(3)	0	37.08
12位	住江	エルグレイ	北大(4)	4	

☆スピードアンドハンディネス中障害飛越競技D				成績時間	
1位	春田	マチカネコン	モセラディングファーム		64.58
2位	西本	タイナータム	モセラディングファーム		76.32
3位	阿部	ラインハート	RCメインフィールズ		78.47
2反E	山川	北閃	北大(3)		

☆スピードアンドハンディネス中障害飛越競技C				成績時間	
1位	川北	ワトキンス	ノーザンホースパーク		74.48
2位	畠山	ダンテライオン	コンドウファームライディングジール		75.50
3位	楠木	シュティム	ノーザンホースパーク		77.46
2反E	宮本	北磐	北大(3)		

☆ツースターB II				得点率	
1位	神林	マキシマムプレイス	酪農学園大学		51.944
2位	神田	柏爵	帯広畜産大学		50.417
3位	谷口	北煌	北大(3)		49.167
7位	谷山	北椎	北大(4)		43.750
8位	吉村	北鳳	北大(3)		43.611

☆第3課目競技 II				得点率	
1位	岩野	アレンジャホン	ノーザンホースパーク		53.867
2位	南川	エヘレストクライマー	酪農学園大学		52.133
3位	田上	リオ	ノーザンホースパーク		51.733
4位	村木	北椎	北大(2)		49.200

●第42回北海道春季馬術大会(於 ノーザンホースパーク 6月15日～17日)

☆標準小障害飛越競技A				減点	J.O.タイム
1位	高野	カルバトス	乗馬クラブテキーラ	0	35.72
2位	堤	柏爵	帯広畜産大学	0	36.95
3位	下田	スピリッツ I	十勝柏友会乗馬クラブ	0	39.36
2反E	小島	北椎	北大(3)		

☆標準小障害飛越競技CI				減点	タイム
1位	木元	セレブ	モセラディングファーム	0	50.12
2位	楠木	ルーラハン	ノーザンホースパーク	0	53.28
3位	阿部	モンブラン	RCメインフィールズ	0	62.79
4位	一色	北創	H19卒	4	60.54
2反E	田中	北椎	北大(2)		

☆スピードアンドハンディネス中障害D				成績時間	
1位	加藤	柏海	帯広畜産大学		60.21
2位	下田	スピリッツ I	十勝柏友会乗馬クラブ		68.20
3位	歌川	エイトブレーヴ	JRA札幌競馬場		69.57
5位	谷口	北煌	北大(3)		73.22

☆標準中障害飛越競技B II				減点	タイム
1位	西原	アンフロア	モセラディングファーム	0	60.05
2位	本間	ホワイトメロディ	ライディングヒルズ 静内	0	71.10
3位	阿部	モンブラン	RCメインフィールズ	1	79.96
9位	一色	北創	H18卒	5	81.11

☆ツースター総合馬術競技				得点率
1位	神田	柏爵	帯広畜産大学	55.417
2位	大塚	柏蒼	帯広畜産大学	54.722
3位	宮本	北替	北大(3)	52.778
5位	谷口	北煌	北大(3)	50.972
7位	谷山	北煌	北大(4)	42.361

☆第3課目競技Ⅱ				得点率
1位	川上	トリーム	モセイディングファーム	59.067
2位	中村	マックロウ	ノーザンホースパーク	58.933
3位	山口	ショットガンアニー	ノーザンホースパーク	56.800
10位	斎藤	北椎	北大(2)	51.467
11位	真田	北椎	北大(2)	49.333

☆公認競技ノーマル中障害飛越競技C				減点	タイム
1位	住江	エルグレイ	北大(4)	7	93.22
2位	宮竹	ラパスⅡ	帯広農業高校	10	87.53

☆標準中障害飛越D				減点	J.O.タイム
1位	山田	ミスターブルー	北星乗馬クラブ	0	40.81
2位	植月	柏嶺	帯広畜産大学	0	43.42
3位	宮本	北替	北大(3)		2反E
2反E	山中	北旋風	北大(3)		
2反E	山川	北閃	北大(3)		

☆公認競技ノーマル標準中障害飛越競技D				減点	タイム
1位	高野	ウイクトワール	S41卒	0	64.12
2位	阿部	ラインハート	RCメインフィールズ	4	67.09
3位	相田	モンテヴェルデ	モセイディングファーム	8	69.18

☆公認競技スピード・アント・ハンディネス中障害飛越競技D				成績時間
1位	高野	ウイクトワール	S41卒	59.88
2位	相田	モンテヴェルデ	モセイディングファーム	61.59
3位	阿部	ラインハート	RCメインフィールズ	64.18

☆決勝競技標準中障害飛越競技D				減点	J.O.タイム
1位	阿部	ラインハート	RCメインフィールズ	0	38.95
2位	堂下	キティホーク	RCメインフィールズ	0	42.10
3位	西原	ライジングハート	モセイディングファーム	0	55.90
2反E	高野	ウイクトワール	S41卒		

☆スピード・アント・ハンディネス小障害飛越競技A				成績時間
1位	高野	カルトハトス	S41卒	64.09
2位	岩本	トーマスジェファソン	JRA日高育成牧場	66.23
3位	井戸田	ミナミコージャス	ライディングファーム・フセ	72.78

●第79回北日本学生馬術選手権大会(於 岩手大学 7月1日)

参加選手 住江(4) 谷口(3)

☆予選				得点率
1位	大塚		帯広畜産大学	53.94
2位	谷口	キンクレーグ	北大(3)	53.18
3位	長村		東北大学	52.27
4位	牧		東北大学	50.91
1位	田中		酪農学園大学	48.79
2位	工藤	アルファリバー	北大水産学部	47.88
3位	住江		北大(3)	47.42
4位	佐藤		福島大学	46.21

☆準決勝				得点率
1位	大塚		帯広畜産大学	57.12
2位	谷口	ハリアント	北大(3)	56.82
3位	坪内		はこだて未来大学	56.21
4位	宮澤		北里大学	54.39

☆決勝				得点率
1位	山口		岩手大学	52.32
2位	大塚	オリエン・ラン	帯広畜産大学	46.67
3位	谷口		北大(3)	45.51
4位	池端		岩手大学	41.16

●第43回北日本学生馬術女子選手権大会(於 岩手大学 7月1日)

参加選手	谷山(4)			
☆予選				得点率
1位	福田		弘前大学	55.30
2位	谷山	オリオンホーイ	北大(4)	48.18
3位	田村		岩手大学	場外E
☆準決勝				得点率
1位	福田	アルファリバー	弘前大学	52.88
2位	植田		東北大学	45.76
3位	松谷		北里大学	44.24
4位	谷山		北大(4)	42.58

●第32回北海道馬術大会(於 ノーザンホースパーク 7月13日～15日)

☆スピードアンドハンディネス中障害飛越競技D				成績時間
1位	高樺	ブライトフライ	ライティングファーム・フセ	82.96
2位	吉村	北鳳	北大(3)	99.56
3位	遠藤	オリオン I	十勝柏友会乗馬クラブ	101.64

☆標準ノーマル小障害B II				減点	タイム
1位	近藤	ブラックライ	RCメインフィールズ	0	72.84
2位	牟岐	ユウバク	酪農学園大学	0	77.62
3位	井上	マキシムブレイズ	酪農学園大学	0	71.17
2反E	内山	北椎	北大(2)		

☆スピードアンドハンディネス小障害飛越競技A				成績時間
1位	遠藤	トカチアトラス	十勝柏友会乗馬クラブ	71.11
2位	小島	オリオン I	十勝柏友会乗馬クラブ	76.58
3位	広瀬	ホナベティ	ノーザンホースパーク	80.79
6位	松井	タイキマーシャル	S46卒	83.63
8位	野村	北鳳	北大(2)	91.67

☆ノーマル中障害飛越競技B				減点	J.O.タイム
1位	楠木	ワキンス	ノーザンホースパーク	4	36.18
2位	楠木	ジュテーム	ノーザンホースパーク	8	40.88
3位	住江	エルグレイ	北大(4)	4	

☆ノーマル標準小障害C II				減点	タイム
1位	近藤	ブラックライ	RCメインフィールズ	0	70.90
2位	土井	ロピン	北海道浦河高等学校馬術部	0	54.58
3位	貞重	ダイエテム	酪農学園大学	0	75.23
4位	谷山	北煌	北大(4)	4	84.34
5位	村木	北煌	北大(2)	4	89.48

☆ノーマル標準中障害飛越競技D				減点	J.O.タイム
1位	南川	ユウハク	酪農学園大学	0	48.21
2位	谷口	北煌	北大(3)	4	40.24
3位	四位	ザッツザハリ	JRA日高育成牧場	4	40.44
2反E	山中	北旋風	北大(3)		

☆標準中障害飛越競技C				減点	タイム
1位	畠山	ダンテライオン	三木田乗馬クラブ	0	64.72
2位	武笠	フェリーアドミラル	マオイホースパーク	20	67.26
3位	西原	ライジングハート	モモセライディングファーム	24	68.80
2反E	宮本	北替	北大(3)		

☆ツースター総合馬術競技・馬場馬術課目				得点率
1位	宮本	北替	北大(3)	54.60
2位	吉田	駿春	酪農学園大学	52.40
3位	神林	マキシマムプレイス	酪農学園大学	52.20
4位	小島	北椎	北大(3)	51.00

☆ノーマル標準小障害飛越競技A				減点	J.O.タイム
1位	小野	ロビン	JRA日高育成牧場		41.49
2位	相田	モンテウエルテ	モモセライディングファーム		43.67
3位	一色	北創	H19卒		44.52
6位	松井	タイキマーシャル	モモセライディングファーム		45.85
13位	小島	北椎	北大(3)	4	
2反E	山川	北閃	北大(3)		

●第53回北海道体育大会兼大62回国民体育大会馬術競技北海道ブロック大会
(於 ノーザンホースパーク 8月10日～12日)

				成績時間
1位	百瀬	ストレイルホーク	モモセライディングファーム	62.30
2位	串間	ジャック	ライディングファーム・フセ	62.40
3位	高桑	トカチアトラス	十勝柏友会乗馬クラブ	68.18
5位	松井	タイキマーシャル	S46卒	72.10
2反E	高野	カルパトス	乗馬クラブエキーラ	

☆スピード・アンド・ハンデネス中障害飛越競技C				成績時間
1位	岩坪	モンテウエルテ	モモセライディングファーム	76.93
2位	石川	カイエン	JRA日高育成牧場	79.31
3位	吉村	北鳳	北大(3)	93.80
2反E	宮本	北替	北大(3)	

☆標準小障害飛越競技B II				減点	タイム
1位	白井	トウカイポイント	白井牧場不二ファーム	0	51.45
2位	吉田	ルヴェリエ	ライディングファーム・フセ	0	52.78
3位	佐々木	ジャック	ライディングファーム・フセ	0	54.34
20位	野村	北煌	北大(2)	4	103.07
経路E	出戸	北煌	北大(1)		

☆標準小障害飛越競技A II				減点	タイム
1位	住江	北遥	北大(4)	8	64.05
2位	神林	エベレストクライマ	帯広畜産大学	8	69.37
3位	谷山	北遥	北大(4)	8	87.88
2反E	小島	北椎	北大(3)		

☆総合馬場馬術競技				得点率
1位	宮本	北替	北大(3)	57.200
2位	神林	エベレストクライマ	酪農学園大学	52.100
3位	谷口	北煌	北大(3)	48.600
4位	吉村	北鳳	北大(3)	47.800

☆第2課目競技				得点率
1位	平山	フォレワール	モセラディングファーム	55.098
2位	石田	柏桜	帯広畜産大学	46.471
3位	宮本	北創	北大(3)	45.882

☆標準小障害飛越競技B I				減点	タイム
1位	富川	ホワイトメロディ	ライディングヒルズ静内	0	69.78
2位	住江	北遥	北大(4)	1	72.25
3位	里深	ルーラパン	ノーザンホースパーク	1	73.38
7位	宮本	北創	北大(3)	4	87.18
2反E	村木	北椎	北大(3)		

☆標準小障害飛越競技C				減点	タイム
1位	宮竹	リトルキングダム	北海道帯広農業高等学校	0	54.52
2位	吉田	ゴーステーター	ノーザンホースパーク	4	59.49
3位	本間	ホワイトメロディ	ライディングヒルズ静内	0	62.89
8位	斎藤	北椎	北大(2)	13	106.00
2反E	真田	北椎	北大(2)		

☆標準小障害飛越競技A I				減点	J.O.タイム
1位	山田	ミスターブルー	北星乗馬クラブ	0	33.84
2位	高野	ウイクトワール	S41卒	0	36.99
3位	百瀬	ストレイラルホーク	モセラディングファーム	0	38.47
6位	内山	北鳳	北大(2)	0	43.41
11位	松井	タイキマーシャル	S46卒	0	2反E
13位	山川	北閃	北大(3)	4	
2反E	高野	カルハトス	S46卒		

●第21回北海道秋季馬術大会(於 ノーザンホースパーク 9月14日～16日)

☆標準中障害飛越競技D 一般の部				減点	J.O.タイム
1位	春田	マチカネウコン	モセラディングファーム	0	44.00
2位	歌川	エイトフレイグ	JRA札幌競馬場	4	
3位	相田	モンテヴェルデ	モセラディングファーム	4	
2反E	松井	タイキマーシャル	S46卒		

☆スピード・アント・ハンディネス小障害飛越競技A				成績時間
1位	春田	シュパリエ	モセラディングファーム	60.02
2位	蛭名	ナールハトル	にいかつぷほろシリ乗馬クラブ	63.95
3位	近藤	サルビア	コンウファームライディングシール	67.70
6位	松井	タイキマーシャル	S46卒	74.21

●OB戦(於 北海道大学 10月7日)

☆120cmクラス				減点	タイム
優勝	谷口	北翔	北大(3)	0	60.89
準優勝	住江	エルグレイ	北大(4)	4	67.37

☆110cmクラス				減点	タイム
優勝	山川	北閃	北大(3)	0	65.33
準優勝	吉村	北鳳	北大(3)	0	69.43
落馬E	宮本	北替	北大(3)		
2反E	宮本	北替	北大(3)		

☆100cmクラス				減点	タイム
優勝	宮本	北替	北大(3)	4	69.72
準優勝	谷口	北煌	北大(3)	4	78.32
2反E	谷口	北煌	北大(3)		
2反E	小島	北椎	北大(3)		

☆90cmクラス				減点	タイム
優勝	武藤	北椎	北大(2)	0	60.01
準優勝	平野	北椎	北大(2)	0	60.38
3位	野村	北焔	北大(2)	0	61.01
4位	内山	北閃	北大(2)	0	61.02
5位	山川	ネイチャーヒーラー	北大(3)	0	62.67

☆クロスバー競技				減点	タイム
優勝	綾部	北鳳	北大(1)	0	53.02
準優勝	出戸	ネイチャーヒーラー	北大(1)	0	51.13
3位	日野	北椎	H18卒	0	56.81
4位	荒瀬	北鳳	H6卒	0	57.11
5位	国井	北柊	H15卒	0	58.46
6位	前田	ネイチャーヒーラー	H18卒	0	58.57
7位	伊藤	北閃	北大(1)	0	48.77
8位	杉下	北椎	北大(1)	0	60.08
9位	岩野	北鳳	北大(1)	0	64.09
10位	清田	北焔	北大(1)	4	73.61
11位	高島	北柊	H16卒	4	96.62
OP	谷山	北柊	北大(4)	0	53.86

●第57回全日本学生馬術大会(於 JRA馬事公苑 10月31日～11月4日)

☆学生賞典障害飛越競技				一走目減点	二走目減点	総減点
1位	中谷彩夏	バーデン・バーデン	関西大学	0	0	0
2位	北島隆三	明一	明治大学	4	0	4
3位	平原枝里香	ジャスコテティ	大阪体育大学	4	0	4
13位	小笠原	柏嶺	帯広畜産大学	4	8	12
27位	谷口	北翔	北大(3)	18	8	26
30位	檜森	柏嵐	帯広畜産大学	16	12	28
33位	神田	柏爵	帯広畜産大学	12	22	34
37位	鈴木	柏海	帯広畜産大学	2反E	28	528
54位	住江	エルグレイ	北大(4)	2反E	2反E	1000
75位	宮本	北替	北大(3)	2反E		
	田中	チャレンジ8	酪農学園大学	2反E		
	南川	ユウバク	酪農学園大学	2反E		
	大塚	柏凱旋	帯広畜産大学	2反E		

☆学生賞典総合馬術競技				調教減点	耐久減点	余力減点
1位	篠原	明政	明治大学	55	0	0
2位	吉澤	エンドーペロー	専修大学	52.8	0	8
3位	加藤	明商	明治大学	51.8	0	12
8位	神田	柏爵	帯広畜産大学	71.3	0	0
12位	小笠原	柏嶺	帯広畜産大学	79.5	0	0
17位	鈴木	柏海	帯広畜産大学	84.8	0	0
30位	神林	エベレストクライマ	酪農学園大学	75.6	28.8	12
38位	福原	北鳳	帯広畜産大学	79.1	44.8	20
43位	檜森	柏咲	帯広畜産大学	76.5	122.4	16
	吉村	北鳳	北大(3)	81.3	5反E	

●第47回北日本学生馬場馬術定期新人戦(於 東北大学 11月24日)

参加選手	伊藤(1) 鎌田(1) 清田(1) 岩野(1)
優勝	東北大学
準優勝	北里大学
3位	北大

●第79回全日本学生馬術選手権大会(於 馬事公苑 12月8日)

参加選手 谷口(3)

☆1回戦

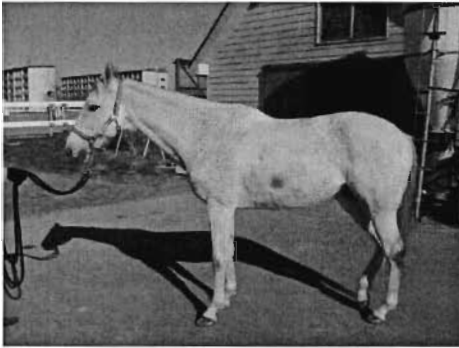
1位	加藤		明治大学	得点率	57
2位	谷口	明由	北大(3)		53.636
3位	大塚		帯広畜産大学		53.181

☆2回戦

1位	柘植		明治大学	得点率	62.272
2位	松本	シーティー	専修大学		55.454
3位	谷口		北大(3)		55.303

◇調教報告◇

北彗（メジロゲネシス）



セン サラ 芦毛

平成5年5月30日生

北海道伊達市産

父 メジロティターン

母 メジロマリア

平成10年11月8日入厩

調教報告

宮本 亮

昨シーズン、僕とゲネシスのコンビはいいところなく終わりました。ゲネシスは一昨年一色さんとのコンビで全日入賞を成し遂げた馬であり、当然昨シーズンも結果を求められていました。このような結果に終わった原因はただ一つ、乗り手の技術的・精神的未熟さにあったといえます。

昨シーズン、春はまだ一色さんの時の貯金があり手ごたえを感じたこともありましたが、貯金を食い潰した夏以降、とうとう僕の乗った北彗号は低空飛行をはじめ、その後上昇することなくシーズンを終えました。

その後紆余曲折ありましたが幸い今年もゲネシスの背中の上にいることになりました。ゲネが腹痛にならないか、曳き馬で人を蹴らないかと心配しなければならない、そんな一年がまた送らせてもらえることは何よりの幸せです。

懺悔の文章は来年書きます。

全日で馬付きをしてくれた斎藤、真田、伊藤には感謝しています。斎藤は細やかに人馬を気遣ってくれ、真田は見えないところで下級生を指導してくれました。伊藤は1年目でわからないことが多い中も、できることを見つけて率先して動いてくれました。本当に感謝しています。全日中、冷静でいられたのは彼らのおかげでした。

また木村さんにも全日中、全日前と色々ご迷惑をおかけしました。ほとんど毎日馬事公苑に足を運んでいただき、僕にとって大会中は本当に大きな拠り所でした。

そして最後に一色さん。結果を出せなくてすいませんでした。今年、秋、また東京でお会いできるよう、努力していきたいと思っています。一年間、一色さんには本当によく凹まされました。しかしその何倍も励まされていたように思います。本当にありがとうございました。

北鳳 (ヤスノインディアン)



セン サラ 鹿毛
平成 8 年 4 月 29 日生
北海道三石郡三石町産
父 ダイヤモンドショール
母 ヒカリハード
平成 13 年 12 月 2 日入厩

調教報告

吉村 誠司

自分はとても下手であり、馬よりも人の技術の向上が第一でしたので、どう調教したかではなく一年間自分が何をしてきたかを書こうと思います。

代替わり直後はとにかく経路練習をたくさんやりました。経路練習をすれば、何が悪いかわかるようになってきます。僕の課題は馬の邪魔をしないということでした。具体的には障害飛越中に引っ張らない、先跳びしないなどあると思いますが、一番大事なのは馬の上で真直ぐ乗っていることだと思います。冬の間はこれができるようにひたすら正反撞で8字乗りなどをし、人のバランスだけで馬が曲がるように、またペースもコントロールできるようにということを心がけました。これは冬の間だけでなく人の姿勢が悪いと感じたときは練習に取り入れました。

雪が解けて障害を始めると、新緑大会では特にひどかったですが、走られてばかりでした。まだまだ自分でバランスが取れていないため、馬の動きに遅れて引っ張るので走り出し、さらに手綱にぶら下がりながらとめようとするので暴走するという状態でした。新緑後はどうしたら走られないかを考え、ツーポイントで駈歩をしてしっかり脚を安定させることで馬のとっさの動きにもついていく練習をしました。これは障害でも同じで、ヤスは障害前に一歩詰まって跳ぶことがあります(人の失敗ですが)、ずっと先とびはしないように最後まで待つということだけを考えていたので、遠くから跳んだときに引っ張ることが多々ありました。しかし脚が安定するにつれて、遠くから跳んでもついていけるようになっていったと思います。その練習の成果あってか、公認大会では若干走られ気味ではありましたが、全部の障害を詰まることなく跳んでくれてそれまで一番良い経路周りをすることができました。

しかし公認後くらいから、今度は逆になかなか前に出てくれないことがありました。どうしたら思うように動いてくれるのかわからないまま国体予選を迎え、フレンドリーではほとんどの障害の前で一歩入れて、今にも止まりそうでした。本番ではとにかく前に出そうとして3番の前で足を滑らせ人が対処しきれずに拒止、向かいなおすときもむやみに前に出そうとしていたせいで、落ち着かせることができないまま向かってしまい失権というひどい内容でした。その後追加エントリーして出たMCスピハンでは、競技前に林兄に乗っていただいていたので、人のミスで一反抗した以外は良く跳んでくれました。今思えば、馬が前に出てくれなかったのは人が出そう出そうと意識して、座

れないのにべたべた座っていたのが却って走りやすくしていたようです。

全日学には話し合いの結果、総合で出られることになりました。馬事公苑ではヤスは意外と落ち着いており、フレンドリーではさすがに物見をしていましたが、障害を怯みながらも跳んでくれたので良かったです(低レベルで申し訳ないです)。

《馬場》

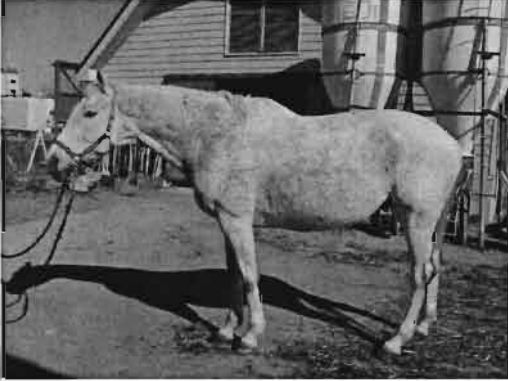
馬場については完全に人の技術不足で、調教審査では見苦しい姿をお見せしました。ヤスは馬場坪の中に入るとテンションが上がりますが、それを拳だけで抑えようとして腰も引けていました。練習や道大会でも肩内、腰内などの運動で拳が先行して段々と前が強くなりけんかすることが良くありました。何事も騎座が第一だと痛感しました。普段の練習では週に1、2回は経路を回することで、経路を体に叩き込み、また毎回課題をもって少しずつではありますが精度を上げていけたと思います。来年はもう一度基本をやり直して55%取れるようにしたいです。

《野外》

野外は帯広に馴致に行きました。個々の障害自体は問題ではなく、やはり大事なのはペースだと思います。北大の馬場でも何度かコースを作って練習しましたが、思い切り走らせられるようなスペースはないので、これは本物のコースで経験するしかありません。全日学の耐久審査では経験不足を露呈して、全然思ったようなペースで運ぶことができませんでした。道中完全に折り合いを欠き、出したいところで出せず、抑えたいところで抑えられず、人も馬も疲れ果てたところで失権しました。その中で得たものは、いい形で障害に向けることができれば跳んでくれるということです(当たり前かもしれませんが)。逆に向け方が悪いと障害自体はたいした事のないものでも止まってしまいます。実際にロングルートでの反抗が多かったのはそのためです。決してロングルートだからといって油断していたわけではないのですが、馬をコントロールできていなかったせいでアプローチが難しくなり、元気よく向けられなかったのが原因です。幅の狭い障害はうちの馬場でもよく練習していて、多少自信はありました。下見の時にはバンケットのあとの樽の障害はロングルートのほうが安全だといわれましたが、どうしても試してみたくて勝手にストレートで向かいました。その他の障害も森に入るところなど怯むところはありましたが、しっかり脚を使えば跳んでくれました。それだけに最後までヤスを勇気付ける脚を使ってあげられなかったのは本当に情けないです。来年は人の体力も付けて全日学総合完走を目標に頑張ります。

最後になりましたが一年間付きっきりで指導して下さった林兄には大変お世話になりました。全日では木村兄も毎日のように顔を出してくれて、特に野外の下見ではとても勉強になりました。本当にありがとうございます。来年は北日学で権利をとり全日学総合完走、そしてヤスが総合の権利馬へと飛躍する年となるよう頑張ります。

エルグレイ



セン サラ 芦毛

平成元年6月10日生

北海道三石郡三石町産

父 メジロエスパーダ

母 スナークリーズン

平成14年9月16日入厩

調教報告

住江 康晴

エルグレイに2年間乗らせてもらいましたが、僕はエルグレイに大したものは何も残すことはできませんでした。調教面にしろ結果面にしろ、すでにエルグレイのほうがそれ以上のものを持っていました。馬のほうが僕に技術や経験をずっと与えてくれました。調教報告として書くことは特に思いつかないので、それらについていくつか書こうと思います。

エルグレイに乗っていく中でこの馬の日々の状態の違いが、何となくからはっきりとわかるようになってきました。その一日の中でも、運動始めからだんだん状態が良くなっていくのが感じられました。その状態を良化させるのに用いた歩様が常歩でした（速歩や駈歩で状態を良くするほどの技術がなかったといったほうが正確でしょうか）。常歩で輪乗り、巻き乗り、停止、二蹄跡運動をしていくうちに馬体がほぐれ、脚反応が良くなるのを感じることができました。速歩や駈歩で状態を良くできなくても、常歩でいい準備運動ができれば脚反応のいい、手の内に入った速歩、駈歩ができ、その逆もまた成り立ちました。つまり、常歩でいい準備運動ができれば速歩・駈歩の運動時間が短縮でき、高齢のエルグレイの負担を軽くできました。障害では、一度派手に拒止すると、自信を失ってか次からも拒止が続くことがあります。そのような時は踏み切りバーを設置して高さを下げてからやり始めるとうまくいくかもしれません。

高齢といえば、その影響は確実にエルグレイを襲ってきていると思います。競技でも日程が進むにつれ前進氣勢の低下がはっきりと感じられ、怪我をしてしまったら治りも遅いです。もし今後大きな怪我や病気をしつと運動ができず筋肉がげっそりと落ちてしまうようなことがあれば、それを取り戻すことは困難を極めるのではないかと思います。…と、ちょっと脅すようなことを書いてしまいましたが、馬自身はとても元気で食欲も旺盛ですし、この2年間持病の肺は一度も悪くならなかったもので、馬体管理に留意していけばまだやっていけると思います。

技術や経験、管理といろいろあると思いますが、それらを通して馬との信頼関係が築ければ、最後には馬が人を助けてくれると思います。エルグレイをしっかりかわいがってあげてください。

最後に、道大会のたびにエルグレイに、時には腕を怪我しているにもかかわらず無理をおして乗って調教してくださったメインフィールズの小野さん、普段の練習を見てくださった貫名さんをはじめ、

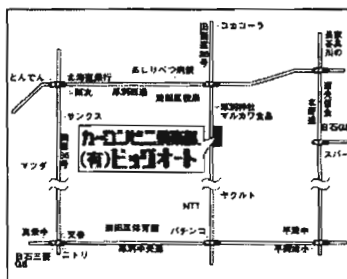
多くの方々にお世話になり、本当にありがとうございました。



カーコンビニ倶楽部。

愛車のキズ・ヘコミを

最短**45**分～で直しちゃおう!



カーコンビニ倶楽部。

(有)ビッグオート

Tel.011-888-6888

Fax.011-886-2042

〒004-0871 札幌市清田区平岡2条2丁目1番55号

営業時間：8:30～20:00 休業日：日曜日・祝日（日・祝受付のみ可）



北翔（シンコウブラウン）



セン サラ 鹿毛
平成2年3月6日生
北海道浦河郡浦河町産
父 クライムカイザー
母 アーマゲイ
平成15年1月19日入厩

調教報告

谷口 善彦

<最初に>

昨年に引き続きシンコウブラウンを担当させてもらった。今年この馬を持つに当たって自分の中で1つの目標を立てた。「何が何でも北日で権利を取る」と。権利馬に乗せてもらっている以上当たり前のことではあるのだが、そうやって自分にプレッシャーをかけ、常に意識し続けることでシンコウブラウンに接している間一瞬たりとも気を抜く暇がないよう自分で自分を見張っていたかったのだ。目標というよりは誓いと言ったほうが正しいかもしれない。調教報告からはずれてしまったがこのように2回目のシーズンを迎えた。

とはいえ昨年も書いたとおりの馬はすでにしっかりとした調教が施された馬である。なので人が上手くなり、その中で馬との関係を築いていくことを第一に考えた。

<FWについて>

代が替わってから雪解けまでは脚の反応を高めることに努めた。使った脚に対してしっかり反応させ、正しい輪乗りの中できっちり内方姿勢を取らせるようにした。後駆が踏み込み、馬が外方のハミに乗って浮いてくる感覚があれば十分だと思う。巻き乗りや8字乗り、横運動でもこの状態をキープしたまま一歩一歩確実に動かすよう心掛けた。馬がハミにもたれてくるときは先に人の姿勢が崩れがちになるので、腰を入れて脚を踏み下げ絶対に馬にぶら下がらないよう注意した。今年は例年より雪が少なく馬場のコンディションが悪かったこともあり、あまり無理をさせず常足が中心だった。この馬は常足でのデキが駆足や障害になってもそのまま直結するので正確にできるようになるまで反復して練習するべきである。そういう意味では逆に良かったかもしれない。

春になってからは一週間で1つの流れになるように曜日毎にある程度メニューを固め、そのクオリティを高めていくようにした。駆足の運動量も昨年に比べて大きく増やした。右手前はやはり姿勢が取りづらかったが、なるべく脚だけで内方姿勢を求めた。駆足では前進氣勢に頼って馬に捕まっているだけという状態にならないように積極的に脚で働きかけてリズムを作り、ゆったりとした駆足のときでも大きく動かすように心掛けた。巻き乗りをするときはまず人がきちんとバランスバックし、馬

が起きた状態で回転に入れるようにした。このとき馬がしっかり起きていれば、重心が後躯に残ってくる。また内方に乗り過ぎないようにも注意した。小さな回転などは外方脚が利いていないと腰がフレームアウトしてしまい後躯からのパワーが正しくハミに伝わってこない。人は内方坐骨を入れた中で外方にも重みを残しておくことが大切である。歩度を伸ばすときはとにかく人が馬の動きに遅れないように気をつけ、逆に詰めるときは拳はじっと整定し、半減脚を利かせるようにした。この馬の場合、これらの運動が楽にできるようになれば経路を廻る準備は出来たと言っても良いと思う。

<障害について>

この馬の飛越能力・センス・経験値に関しては疑う余地がない。もし上手くいかないならばそれはFWまたは人の問題である。だから今年はFWの確認と人の練習の意味で少しずつだがコンスタントに障害を飛んだ。そしてそこで出てきた問題点を日々のFWで修正していくようにした。大会は北日までに三度使ったが、大会毎に自分の中でそれぞれ次のような明確な目的を持って挑んだ。

新緑大会(以下①)…馬を行く気にさせる 春自馬大会(以下②)…行く気にさせた中でしっかり馬を起こす 公認大会(以下③)…その中で馬と折り合い良いペースで経路を廻る

まず①だが、昨年の失敗を繰り返さないためにも人が一度、障害に向いたら絶対に飛ぶ状態を知っておかなければならなかった。準備運動では、障害前でパワーが貯まって人は脚をはさんで待っていればいよいよ、回転で内方脚をどんどん使って馬を前に出した。経路の後半少し持っていかれ気味になったが、絶対止まることはないという安心感を持って廻ることができた。②では①のような状態にした中で少し強めにコンタクトを取り、馬を伸ばさないように気を付けた。特に障害後はすぐに人がバランスバックして脚で馬を起こし、再び力強い駆足で次の障害に向かうようにした。ただ最後の最後に馬を起こしきれず、一步二歩のトリプルを一步一步で飛んでしまい付き遅れた人が落ちてしまうという馬に申し訳ない結果になってしまった。③の頃にはFWの効果もあり馬が自然と起きてくるようになっていたのであとは脚でしっかりリズムを作ることを心がけ、②の反省を踏まえて道中馬を楽にするところを作るようにした。終始一貫したペースで廻れ、最後のトリプルもスムーズに抜けることができた。

結局、馬インフルエンザの影響で北日は中止となり、不本意ながら選考という形で全日の権利を獲得した。全日前に新たに取り組んだことはほとんどなく、それまで通りFWのクオリティを高め、いかに短時間で良い状態を作れるかということを目標に練習を重ねた。その全日では一走目こそ出口に向かうトリプルを飛んだ後、垂直に振られた最終障害に向けきれず一反抗を喫したが、二走目は今までで一番の内容の経路廻りをすることができた。これも全て今シーズンの大会を経て馬の良い状態を知ることができた結果だと思う。入賞を逃し後悔が無いといえれば嘘になるが、自分なりに満足のいくシーズンを送ることができた。

<最後に>

この馬の場合、いかに障害に対して良い状態で向かうことができるか、ということに尽きると思う。普段のFWからしっかり人馬の関係を築き、いつでも障害に迎えるという態勢を整えておけば結果はおのずと付いてくるはずである。そして、そのためには自身の姿勢や扶助をしっかり磨かなくてはいけない。右後肢の兼ね合いもあり多く運動量を求めることができないが、その分乗り手は集中して短時間で実りある練習ができるよう工夫すべきだろう。あとは馬のケアを怠らないこと、放牧などで馬がリフレッシュできる機会をしっかりと作ること。試合前は少し運動量を減らして馬をフレッシュな状態にしておいた方が良いかもしれない。次に乗る野村には、これらの点をしっかりと踏まえ、僕が果たせなかった全日入賞を目指すべく強気に頑張ってくださいと思う。馬からたくさん教えてもらってください！

シンコウを担当したこの2年間は本当にたくさんの人にお世話になりっぱなしでした。特に練習から試合まで常に気をかけ、アドバイスや激励を送ってくださった林兄には本当に感謝しています。また遠くから温かく見守ってくださった中田兄、池谷兄をはじめとするOBの方々にもこの場を借りてお礼を言いたいと思います。ドンパやシンコウ大好きな後輩の応援もとても心強かったです。本当にありがとうございました。

シンコウへ

君には本当に色々なことを学ばせてもらいました。よく跳ぶし、むっちゃ可愛いし、一緒に過ごした時間はすごい幸せやった。もおだいぶおじいちゃんになってきたけどあとちょっとだけ北大の柱として頑張ってな。君は最高やわ！2年間ほんまありがとうな！！

赤ひげ

で

よくコンパをやります。次のコンパが楽しみだ。

札幌市北区北22条西5丁目2-5

TEL 707-5076

北椎 (シーベスト)



セン サラ 黒鹿毛

平成7年6月5日生まれ

北海道浦河郡浦河町産

父 タマモクロス

母 シークイン

平成15年8月25日入厩

調教報告

小島 真宏

シーベストには代替わりのときに、前任者の関田姉から引き継ぎました。まず、代替わり後すぐは人がまだどういう馬なのか分からなかったことと、馬が少し障害に対して臆病になってきているということから、なるべく多くの大会に80~90cmぐらいの高さで出ました。その結果、人も少しは慣れ、馬も90cmぐらいまでなら大丈夫という自信を取り戻してくれたと思います。

この馬の特徴は色々ありますが、最大の欠点は三つあります。一つ目は障害前で左に逃げることです。二つ目は元々歩幅の小さい馬で、障害前にすぐ一步入れてしまうということです。三つ目は障害になにか変なもの（特にリバプール）が入っていると、それを見て怖がってしまい、飛ばないことです。

一つ目の欠点はずっと言われ続けてきたことですが、左脚の反応が良くないということが原因で、それを直すために冬場はとにかくフラットワークで左脚の反応を右脚と同じくらいにするとということを目指して練習しました。最初は前肢旋回や輪のりの開閉、巻き乗りなどの簡単な運動をきちっと脚に反応させながらやり、それができるようになってきたら徐々に斜め横足、肩内、腰内、後肢旋回などの運動に移っていきました。また横運動ばかりやっていると馬が前に出なくなってしまうので、歩度の詰め伸ばしをしっかりと脚に反応しているかを確認しながらやりました。あまり自分から前に歩く馬ではなく、変に口をいじってしまうと歩かなくなってしまう恐れがあったので、口向きはあまり気にせず、しっかりと歩かせることを第一に考えました。また人の拳が安定せず、馬の邪魔をしていることが多かったのでフラットワーク中もマルタンをつけました。春ごろには左右の脚の反応が均等とはいかないまでも、だいぶ良くなりました。

二つ目の欠点は馬にそういう癖がついてしまっていたので、それを直すために、普段の障害練習で駆け足飛越を多く取り入れました。まず、フラットワークでしっかりと前に出る状態を作り、障害を飛ぶ直前に脚を使って、少し遠くてもつまらないよう飛ばせることを心がけました。経路中では一定のペースで少し遠くから飛ばせることを第一に考え、詰まったらすぐに前に出すというように回りました。

三つ目の欠点は馬の性格が原因であり、とにかく慣れさすしかないと考え、シーズンに入った後の障害練習ではリバプールの馴致を中心に行いました。結果からいってしまえば、シーズンを通して、

障害にもものが入ってくる 100cm は一回しか帰ってくる事ができませんでした。一つ目の欠点である左に逃げるといことはほぼなくなり、二つ目の欠点もあまりみられませんでした。やはりリバプールが入るとそこで馬が嫌がってしまうということが多々見られました。北大のリバプールは夏ごろにはなんとか嫌がらずに飛べるようになっていましたが、ノーザンなどの別の場所に行くと、リバプール以外のものでもどうしても見てしまうという状況でした。

馬場に関しては、先述したように口向きを無理に意識しすぎると前に出なくなってしまう欠点があり、また歩幅が小さいため歩度の伸縮（特に速足の時）を苦手としています。しかし、ある程度乗り手が馬の頭の位置を安定させることができるようになればツースターで 50% くらいは取れると思います。実際、公認大会でツースターを回った時は 50% を超えました。しかし、点数が取れる馬ではないので、点数を取ろうとするのではなく、落とさないように考えて回った方が良いと思います。

代が替わってすぐの時はこの馬でも高い障害が飛べるだろうと考えていましたが、一年間乗ってみて、正直なところ 90cm ぐらいが精一杯かなと考えます。なぜかというともうものを見るのがひどすぎて、障害にもものが入ってくる 100cm 以上は厳しいと実感しました。また飛び方があまりうまい馬ではないので、高くなってくるとどうしても一歩入って飛んでしまいます。特にオクサーなど幅のある障害や連続障害は苦手で、馬が無理だと思えば止まってしまう。

ここまでシーベストの欠点ばかり書いてきましたが、良いところは、すごく大人しく、下級生や初心者でも安心して乗せられるところにあります。フラットワークも一通りのことができ、またものさえ入っていなければ、ある程度の高さなら誰でも飛んでくれます。今後はこの点をいかして最強の練習馬をめざしてがんばってほしいと思います。

最後になりましたが忙しい合間を縫って練習を見に来てくださった慶応大学馬術部 OB の貫名さん、大会や経路周りの時に貴重なアドバイスを下さった日野兄、本当にありがとうございました。一年間馬を持ったという経験を来年以降につなげていきたいと思っています。

味の福々亭 満足の味どが!
札幌市北区北20条西5丁目
TEL 746-6065

各種定食 650円~	昼の部 11:30~14:00
カレー・丼物 500円~	夜の部 17:00~24:00
	定休日 土曜日

10名様以上でご利用の方は、一割引きます!

安い!うまい!ボリューム満点!!
肉みそラーメン・肉チャーハンの店

大 将

ラーメン

18条店 / 737-7330 (~AM5:00)
22条店 / 747-7776 (~AM3:00)
25条店 / 707-5707 (~AM1:00)
麻生店 / 736-8800 (~AM3:00)

25条店、麻生店では出前も承っております。ぜひご利用下さい。

北閃 (パワフルショット)



セン サラ 青毛

北海道三石郡三石町産

父 ブライアンズタイム

母 ゴールデンリッカ

平成 15 年 11 月 15 日入厩

調教報告

山川 倫明

パワフルショットの競技場などで見せる気難しい性格は、チーフとなる前からも何度か見ており、乗りこなせるか不安ではありましたが、この馬の実力を自分がどれだけ引き出すことができるのか、自分たちがどれだけやれるのか、そういう気持ちから、志願してコンビを組むことになりました。結果的には、人の実力不足が露骨に表れる形となってしまいました。馬乗りとしてとても成長できた一年であったとも思います。

まず、チーフとなってからの秋から冬にかけてですが、貫名さんに指導してもらいながら、主に、座りや拳、脚の位置などといった人の姿勢の訓練をしていきました。馬を動いた状態にさせるには、当時の自分には、絶対に欠けていたものがあつたので、なるべく練習の始めに乗ってもらい、動いた馬に自分が乗ることで、少しずつ感覚を磨いていくようにしました。具体的には、坐骨で座ることであつたり、馬の口を邪魔しないような柔らかい拳であつたり、膝や踵など余計な部分に力をいれない、ふくらはぎによる脚の圧迫の習得などを目標に練習していきました。成果としては、日によって波はあつたものの、以前よりも馬を動かせるようにはなつていったと思います。また、この時期は、馬の頭の高さを特に気にすることなく運動していましたが、今振り返って見ると、しっかりと顎を譲つた状態での運動をするべきだつたと思います。後にも述べますが、頭の高い状態が数々の反抗を招く大きな原因に繋がるのではないかと、というのがシーズンを通して乗つてみての印象です。

次に、シーズンに入つてからですが、納得できる馬の動きになるまでは、障害はやらない方がよいのではないかと思います。障害練習に関しては、試合前に少し経路廻りをする程度の消極的なものでした。しかし、これは少し偏つた考え方であつたような気がします。せっかく抜群の飛越センスを持った馬なのだから、もっと多くのことを学ぶべきでした。結局、フラットワークも障害も中途半端な状態にすることしかできず、そのような状態のまま、試合で良い結果を残せるはずもなく、ノーザンホースパークでの大会では、例の如く、リバプールに近寄りもせずに、失権を繰り返すという始末でした。

次に、ノーザンホースパークでの一ヶ月半近くにわたる合宿について触れたいと思います。広瀬さんには、大会の度に指導して頂いていたのですが、競技の惨状を見るに見かねてか、馬と一緒に合宿してもよいという話を提案してくださいました。長期の不在ということで、部には迷惑をかけること

になりますが、部員のみんなも快諾してくれ、また、めったにない貴重な経験であり、間違いなく自分にとって実になるだろうと思い、お世話になることになりました。この期間に指摘されたことは、しっかり顎を譲って運動しなければならないということ、障害の踏み切り地点をもっと近くにしなければならないということ、経路走行中に馬をのめらせないこと、という様なことが主な点です。顎を譲っての運動については、あらゆる運動の基本となるものでしょうから当然だと思います。障害の踏み切り地点については、パワフルショットは度々、かなり手前から踏み切ることがありました。これはバネがあるからこそ為せる業なのでしょうが、広瀬さんがおっしゃるには、馬に自信がないから手前から踏み切るのであり、もっと近くから踏み切らせてあげれば、より高く跳べるようになるであろう、とのことでした。経路中にのめる点については、それまでの大会などでも常にそうであり、重心が前にあるため、競技での膠着に繋がるのであって、もっと馬を起こして、後軀を踏み込ませなければならない、とのことでした。始めのうちは、先に乗ってもらい、馬を起こすための減脚操作がきちんとできた状態にってもらってから僕が乗り、細かいことをたくさんやるというよりは、以上に述べた点をしっかり注意して、とにかく多くの障害を跳びました。日を重ねるに連れて、馬も自信を持ち始め、僕たちにとっては困難であった110cmクラスもある程度安定して走行できるようになりました。目標としていた北日は、馬インフルエンザの影響で中止となっていまいましたが、この一ヶ月半の間に多くのことを学び、また、自分の乗り方に自信を持てたことは今後にとってかなりの財産になりました。

一年間を振り返ってみて、一番の反省点は、自分に自信を持てていなかったことだと思います。どのような運動をして馬を良くしていくかのイメージも湧かず、周りの人が指導してくれていたのに甘えて、ただそれに従っているだけの毎日だった気がします。周りの人の声を聞くことは大事ですが、それを自分なりのやりかたに改良しなければならないでしょう。チームに必要なことは、技量はもちろんですが、自分の頭で考え実践していく力だと思います。そのためには、自分の乗り方に自信を持つことが何より大事なのではないでしょうか。結果を残し、活躍した先輩方は皆さん、自分の乗り方に自信を持ち、自分なりの乗り方を確立していた方々ばかりだと感じています。その意味では、パワフルショットと数々のことを経験し、学ぶことで、僕も自分の乗り方に自信が持てるようになりました。新チームの方針から、僕は来シーズン、パワフルショットとのコンビを解消し、名馬・エルグレイと新たにコンビを組むことになりました。ドンパの全国での活躍も刺激となっています。来シーズンは僕の出番という気持ちで、自信を持って臨みたいと思います。

北遥 (イクスカーション)



セン サラ 鹿毛

平成 10 年 6 月 20 日生

北海道浦河郡浦河町産

父 ラムタラ

母 インバレル

平成 16 年 9 月 15 日入厩

調教報告

住江 康晴

乗り変わった時に注意したことはしっかり脚を使って元気よく馬を動かすということでした。その頃の北遥はいまいち脚反応が悪く、またハミにもたれかかるように前のめりになる傾向があったので、踵ではなくふくらはぎを中心に脚全体を使って馬が起きてくるよう活発に動かすよう努力しました。障害でものめって惰性で走りやすかったので飛越後に一度しっかりと馬の体勢を起こしてから元気よくして次の障害前では待つ意識でやりました。

積雪期に入ってから運動スペースの減少から輪乗りで運動することが多くなったので、輪乗りの輪線に沿った馬の内方姿勢を意識して、拳を一定にしてそのハミの位置に馬が収まってくるように脚を使い、両手両脚の中に馬を収める感覚をもって乗りました。あと、積雪期はどうしても運動量も少なくなってしまう、馬が張ってしまうのでその張りをとるためと野外走行のための体力づくりを目的として、圧雪を行っていない馬場の外周を速足で運動していました。そんな中、初乗り会である OB に見ていただく機会があったのですが、そのとき指摘してもらったことが冬場で足場が悪いからといって縮こまって乗るのではなく、広く馬場を使って元気よく馬を動かすことでした。確かに冬場は寒くて運動スペースも狭く、背も丸まりやすく無意識のうちに自分の乗りやすいペースで乗っていたりいろいろな意味で縮こまりやすくなりがちです。そのような中で、しっかり手綱をとって駆足が出そうになるくらいの速足を求めるような運動の重要性を知りました。北遥にとっては、ちょこちょこと踏み込みが浅く歩幅が小さいところがあるので、ハミを受けさせた中で駆足が出そうになる直前の速足を求めて大きく動くようにと指導を受けました。駆足が出るなどのリズムブレイクを感じたら速足の坐りを特にしっかりと坐るように、馬の背中からお腹までしっかりと包み込むように脚を使って防ぎました。駆足でも指導してもらったのですが、その方はあの馬場状態でも手の内の中に入れて馬をしっかり動かしていましたが、僕にはまだまだ技術不足でうまくできませんでした。

雪が溶けて、コンビネーションから障害を再開したのですが、やり始めた頃は障害に突っ込んで飛ぶたびにどんどん加速していくような状態でした。走るからとアプローチをもっとゆっくり入って落ち着いて飛ばそうと本能的に思ってやったのですが、馬にとってはそれが飛ぶ体勢になれずにいただけのことでした。つまり脚を使わずゆっくり向かうのではなく、逆にしっかりと脚を使って動かして馬を起こして障害を通過しやすい姿勢とペースにすることを人のほうが冬を過ぎて忘れていました。

また、障害を飛ぶときに大きく失敗してしまうと、自信をなくしてか次回以降拒止することが目立つのですが、特に踏み切り位置がよくわからなくなって止まってしまうように感じたので、高さを下げて踏み切りバーを置くとその後うまくいきやすかったです。半澤杯、新緑大会と低いクラスから出場し、一定のペースでまわってこれたのでいい手ごたえを感じていました。また、半澤杯後に札幌競馬場乗馬センターの先生に乗ってもらった機会があったのですが、その方は低伸運動においてうまくハミと連絡をとって馬をハミに従順にさせ、馬の背中を使って後躯の踏み込みを深くし左右の柔軟を行っていました。北遥は乗り変わった頃から慢性的に背中や腰を痛がっていたので、その強化のために以前にも自分で低伸運動を試みたこともあったのですが、これでちゃんと馬が動いているのかと自信がなかったので取り入れていませんでした。しかし、先生に指導してもらい、感じがつかめたので毎日の運動に取り入れるようにしたところ背中の痛みも緩和され、動きが大きくリズムがよくなったように思います。

新緑大会後に畜大馴致に行ったのですが、現役に野外経験者がいなかったので5年目の一色兄と林兄に無理にお願いして指導してもらったおかげで、非常に効率よく進めることができました。やはり野外の馴致には野外経験者、熟知者がいないことには難しいと思いました。北遥にとっては一年前にも一通り馴致しているので、馬というよりは人の馴致のほうが大きかったと思います。ペース、障害の形状、アプローチなどなど普通の馬場とは異なったものが多く、やはり野外は数少ない経験の場なるべく多く持つことだと思います。

札幌に帰ってくると、畜大馴致中に脚をぶつけてしまったのか骨瘤を発症してしまいました。症状が寛解するのに一ヶ月以上かかり、そこから運動を再開して8月上旬の国体予選、8月下旬の北日を目指しました。長く運動を休んでましたが、北遥の障害に対するカンはずっとおらず、国体予選では90cm、100cmと一通りまわってこれました。しかし、運動量が増え脚への負担が増えたのか、また骨瘤の症状が見え始めてからは治療（冷却）しながら様子見の運動内容になってしまい、結局北日の中止が決まってからは軽めの運動で治療に重点をおく形になってしまいました。

以上、つらつらと長い報告になってしまいましたが、最後に北遥について自分なりに思ったことをまとめたいと思います。

北遥は非常に素直な馬だと思います。というのも、しっかりとアプローチをとって障害にまっすぐ向かい馬に目標とする障害を認識させれば、拒止することはあってもまず左右に逃避することはありませんでした。野外のような見慣れない障害でも、最初その障害を見せているときはビビっても人が逃げ場を与えずGOサインを出すと飛んでくれました。畜大馴致では下級生を乗せて野外障害をいくつも飛ばすこともできました。これもひとえに今までのチーフの方々がこの素直さを曲げずに地道に努力を重ねてくださった賜物だと思います。僕もその意思を引き継いで乗ろうと心がけました。特に下級生が乗って100cmの経路をまわってこれる馬にしたいと思い、自分が経路をまわるときでも細かい脚反応はあまり求めず、ツーポイント気味で開き手綱とバランスで馬を回転させ障害直前は口を引っ張らず逆に手綱が緩むくらい、馬をラクにして踏み切りは馬任せにするくらいを意識して乗りま

した。そういう意味では僕にとっては非常に乗りやすい馬でした。最終的には、国体予選で僕以外が乗って 100cm の経路を帰ってくることができました。ただ下級生にとっては北遥の気性面で扱いきれなかったところがあったようです。運動不足で馬が張ってきたりするとチャカついたり走ったりと、そこをグッと抑えられるかどうかで北遥に対する乗りやすさの印象が変わるようです。なので少し疲れてるくらいがちょうどいいと思い、どんどん運動させようと思った矢先、骨瘤で運動できない時期が続いて能力の鍛錬面も含めて非常に残念なことだったと思います。

今後の課題としては、あまり運動のできない冬場のうちに脚部の不安を解消すること、地道なフラットワークと障害練習で筋力をつけて障害に対する慣れと自信を積み上げること、まだまだ 100cm クラスの経路だとオクサーや連続障害にひるむなどと人がフォローする場面が多いのでよりスムーズにそのクラスの経路をまわってこれるようになること、あまり細かい脚反応を求めてない分ドレッサーの調教不足（がありますがもともと口向きは悪くないので活発にスタスタと動かすことを意識すれば 2 スターまでなら一通りまわってこれました）などが挙げられると思います。他にも課題はまだあると思いますが、これらの課題をひとつずつクリアしていき、もう少し気性も落ち着けば、北遥はきっと下級生を乗せて安心してメータークラスをまわってこれるようになると思います。今の北大馬術部にはそのような馬は少ないので、そうなれば北遥は部にとって大変貴重な存在、財産になると思います。そしてゆくゆくは全日に出場できれば…と願います。

一年間、微力ながらも北遥に携わることができ非常に楽しかったですし、やりがいを感じました。この一年間、本当に多くの人に支えられ、応援していただき、本当にありがとうございました。僕の方力不足で思うように北遥を押し上げてやることはできませんでしたが、続きは後輩たちに託して今後の活躍を楽しみに待っています。

北大馬術部を応援しています☆



医療法人かくいわ会 大阪府豊中市服部元町1-10-19

北焯（ウインジーニース）



セン サラ 鹿毛

平成 12 年 4 月 19 日生

北海道千歳市産

父 バブルアムフェロー

母 サクラギャル

平成 16 年 10 月 24 日入厩

調教報告

谷口 善彦

まずはじめにウインジーニースという馬自身について少し触れておきたい。この馬の担当になったのは代替わり後だったが、それ以前から前任の林兄に試合で何度か乗せていただき、福島の野外も飛んでいた。また北日直前に行われたアメリカナショナルチームのコーチであるドン氏のクリニックにもこの馬で参加させていただいた。そのような経緯もあって、代替わりの時点である程度この馬の癖や性格を知った上で1年をスタートすることができた。当時の印象は、とにかく頑固、だった。それは1年経った今も同じである。良くも悪くも自分に素直で、納得したことに関してはこちらの要求以上のことを器用にこなすのだが、一度へそを曲げたり、気に入らないことがあると乗り手の指示から逃れることばかりを考えるようになる。個人的な見解になるが、運動神経も理解力も高いレベルにあり、その気になればある程度のことは難なくこなせるはずである。しかしなかなかやる気にならず、かと言ってやらされるのはもっと嫌がる、乗っている側としては非常に歯がゆい馬である。前置きが長くなったが、ここからはそんなジーニースの性格に悩み考えさせられつつ、3歩進んで2歩(時には4歩)下がるということを繰り返したこの1年を振り返っていこうと思う。

代替わり直後に行われた秋自馬大会では初めて自分で準備運動から行った。元々障害に対して積極的なタイプではないのである程度元気をつけた状態で障害に向けなければいけない馬なのだが、勢いだけで飛ばせたくなかったので少し前を強めに持ち、幾分ゆったりとしたペースで経路を廻ろうとした。しかし要求が高かったのか、経路は廻ってきたものの障害前でひるんだり、回転で窮屈になり肩を張るという結果になってしまった。その後シーズンの終わりまでに二度試合に使ったが、もう少しコンタクトを弱くしても結果は同じで、規準タイムのようなペースではまだ自信を持って障害を飛ばず、走らせ気味でないと経路を廻れない状態だった。大会デビューした年としては合格なのかもしれないが、クラスが上がっていけば通用しなくなるし、また走らせてテンションの高くなった状態では必然的に強引な誘導が増えてしまうので、今後のことを考えると少しずつでも落ち着いた経路廻りができるようにっていかねばならないと感じた。

普段のFWをする中で最初に取り組んだのは脚と拳の関係改善である。これは林兄も言っていたことだが常足で落ち着いて大きく歩くことができない。脚や拳の繋がりが悪く、推進がうまく伝わらないので歩幅を大きくしようとするうちよこちょこ早くなるか、場合によっては速足に逃げてしまう。前に逃がさないように拳を強くすると今度は頭を上げたり、バタバタしてしまう。速足でも同じことが言えた。冬場はこの問題を解決することに重点を置いた。まずハミによるプレッシャーをなくして脚でリズム良く歩かせるよう心掛け、その中で徐々に大きく動かしていくようにした。よく歩いているときには軽めのコンタクトを取り、拳はじっとしたままその拳に脚で押し出していくようにした。そして上手くハミを取ってくれば脚を使ったまま拳を譲ってやり、つかかかってきたり頭をあげるようならもう一度リズム良く動かすところからやり直した。これを繰り返すうちに微々たるものではあるが馬の方からコンタクトを求めてくるようになった。次に前肢旋回を取り入れた。最初はとりあえず前に逃がさないように拳を強く持ち、頭をあげてもとにかく内方脚に対して後肢を外へ外へと動かした。反応したらすぐ拳を譲り、ほとんどコンタクトがなくても前へ逃げないようになるまで続けた。そしてそこから少しずつ外方のコンタクトを取って、内方脚と外方拳の関係を作っていった。途中から使い始めたマルタンも効果的だったように思う。速足についてもまずリズム良く動かすところから始め、前肢旋回の代わりに巻き乗りや8字乗りをたくさん行った。この馬はハミに敏感で内方手綱ばかり使って曲げ続けていると、内方のハミから逃げようとして段々肩を張り外に膨らんでいってしまう。下級生が乗っているときは特に顕著で、僕もそうなることがよくあった。それもあって、自分の中で外方の拳に収まるということは不可欠だと感じていた。そしてそれがやがて内方手綱への反抗を減らすことにも繋がるだろうと。そのため、馬の状態が良いときは内方脚を積極的に使った中で、内方手綱を完全に譲ってしまい外方拳の強弱で巻き乗りをするようにした。これが楽にできるときは、リズムや移行も良く、下級生に乗り代わってもスムーズに動くことが多かった。

シーズンに入ってからFWに関しては駆足の割合を増やただけで基本的に冬場やっていたことを中心とし、良い状態のときは輪乗りの開閉や後肢旋回、斜め横足も運動メニューに加えた。この頃になると頭は若干高い位置にあるものの、脚を使うとハミに出てくるようになってきていた。半澤杯では2課目を使ったが主審の方に57%を付けていただき、試合後にも脚がちゃんとハミに伝わっていると評価していただいた。障害に関してはシーズン始めということもあり、あまり高さには拘らずFWの延長線と捉え経路廻りの質を高めることを重視した。半澤杯でも前進氣勢を維持したまま、最後までまとまったペースで帰ってくることができた。また野外に関しては非常に物見が激しく、穴にいたっては近づこうともしないので、まずは外乗の機会を増やして構内にある木やコーンを飛ばせるなど馬場とは異なる環境での障害に慣れさせることから始めた。

冬の成果を実感でき、馬の調子が良かったこともあり半澤杯以後はもう少しコンタクトを強め、腰内なども取り入れるようにした。障害は週2回ほどコンビネーションを飛ばせ、週末には経路廻りを多く行った。コンビネーションでも経路でも元気良く向かい、障害前ではコンタクトを取ったままし

っかり脚をはさんでおくようにした。このような運動を続けて数ヶ月、夏を迎える頃には120cmまでのコンビネーションや経路をこなすようになった。しかし、今思えば時期尚早だった。この頃から下級生が乗るとだんだん曲がらなくなり、僕が行っていた普通のFWでも駈足で小さな回転を入れたり、横運動で姿勢を維持しようとするとう反抗を示す場面が増えた。7月の道大会ではMDを満点で帰ってきたが、内容は褒められたものではなく、操作性の悪さからかなり強引な誘導が多くなってしまった。この馬の場合、操作性の悪さはその運動への不満から来ることが多い。それはつまり乗り手の扶助に対して納得できていないということである。それからは人の技術不足に馬の性格もあいまって、以前できていたことをやってくれない、やったとしても常に逃げる機会をうかがっている、などすっかり悪循環におちいってしまった。そんな人馬の関係の悪化は8月に出たMDで1番障害反抗という明らかな形として表れた。まだ脚や拳での扶助を完全に理解していない本馬にとって、要求が上がるに連れ強くなっていく推進とコンタクトは納得できるものではなく、そんな納得がいかない状態で障害を飛ばされるということが相当なストレスになっていたのだろう。これ以上は無理しないという線引きの判断が甘かったのだと思う。結果的に無理やり向け、無理やり飛ばせる形になっていたのだ。

この大会を機にもう一度運動のレベルを落とし基本からやり直すことにした。回転や姿勢の入れ替え、横運動は脚や人のバランスで行い、拳は極力使わずに馬が逃げようとしたときにだけ作用する、馬にとって合理的なコンタクトを心掛けた。また簡単な運動をたくさんすることで譲る場面、褒める場面を増やし馬が前向きに動いてくるようにした。馬自身が納得する方法をとることで少しずつ人馬の関係が修復されていったように思う。障害も高さは100cm程度にとどめた。経路廻りでは春先と同じく回転やアプローチの質を高めることに集中した。ラインに入る段階で人がすべきことは全て終わらせ、障害に向いたらじっと待っておき、飛ぶという仕事は馬に任せるようにした。障害後や長めのラインなどでは2ポイントで馬の背中を楽にしてやる場面も増やした。幸い障害を飛ぶという行為自体を嫌がっているわけではなかったため、人が乗り方、馬への接し方を意識することによってまたスムーズに経路を廻れるようになった。高さに関しては今のままでもある程度までは対応できると思うので、先ずはいかに能力を出し切れる経路廻りができるかが今後の課題となってくるだろう。FWから質を上げていかななくてはいけない。そしてそのためには馬にわかりやすい確かな扶助、人の正しいバランス、知識、馬の些細な反応も見逃さない観察力(一色兄はこれをセンサーと呼んでいた)が必要不可欠である。野外は相変わらず物を見るが、北大の穴はなんとか納得して飛んでくれるようになった。ただ、これから何度も飛ばせて完全に自信を持たせる必要があるだろう。

下級生の練習についても少し。こんな性格の馬なので1, 2年生にとっては非常に乗りにくい馬かもしれない。独力でバランスが取れない人や、矛盾した扶助を送ってしまいがちな人はすぐに逃げられてしまい、時には輪乗りの維持さえままならなくなる。僕の調教が下手なのは間違いないが、それ以上に練習メニューに失敗が多かった気がする。新馬扱いの馬にとっては一年生が常足をするときでさえ調教の一環である。これを踏まえて、乗っている人が失敗しないような、馬が悪いことを覚えな

いような、最大限の工夫をしなくてはいけなかった。これはジーニアスに限らず、馬配が足りなくて新馬に下級生をのせる機会が多い現馬術部では他のチーフも気をつけなければいけない。

馬インフルエンザの影響で8月以降は大会に出ることができなかったが北大の馬場で経路廻りをしている限りでは、なんとか悪いサイクルから抜け出し、上向きの状態でシーズンを終えることができたと思う。人は常に馬にとって合理的なシステムで乗らなければいけない、そして上手くいかないときは必ず要求を下げて前のステップに戻り確実な運動をする、という大きな教訓を学んだ。このような性格の馬の場合はなおさらだろう。それを繰り返すことで、できていたことはより確実で質の高いものになり次のステップも踏みやすくなる。底面積を大きくしていくことにより安定性を増し、結果的に全体としての体積も大きくなる三角錐のようなイメージである。決して乗りやすいとは言えず、厄介な癖も多い馬ではあるが、北大で長い間活躍してもらうためにも焦らず、じっくり大きな三角錐へと成長していった欲しいと思う。

モモセライディングファーム

札幌市清田区美しが丘3条3丁目

TEL 881-0470

北創（サクラスペリオール）



セン サラ 黒鹿毛
平成 13 年 4 月 9 日生
北海道 静内郡 静内町 産
父 サクラローレル
母 サクラヒーロー
平成 18 年 6 月 24 日 入厩

調教報告

一色 真明

まず、最初にこの馬の名前について少しお話しします。

昨年度の部報で報告されていますが、この馬は平成 18 年 6 月 24 日に静内の新和牧場より入厩しました。非常に潜在能力の高さを感じさせる馬でした。当時、事故により将来を期待された北奏号を離厩させた直後でした。北奏の事故を忘れないように、そして北奏の分まで活躍してほしいという願いを込めて「ほくそう」の名前をつけました。また、近年の主力馬の高齢化や目立った純北大調教馬が出てきていない状況を打開し、次世代の北大を創りあげてほしいという思いを込めて「北創」と名づけました。大げさかもしれませんが、それぐらい気持ちを込めて調教を進めていきたいと思っています。

では、実際の調教について報告します。先に潜在能力が高いといいましたが、乗馬としては全くゼロからのスタートでした。歩様の大きい馬なので、調教に当たってはその動きを小さく丸め込んでしまわないことを注意しました。馬と扶助との関係を一からゆっくり作っていきました。同時にシャンボンを用いた調馬策で低伸運動から背・後躯の筋肉強化を図りました。数日で低伸するようになり、驚いたことに乗って速歩をしているときも手綱を伸ばすと自ら低伸してくるようになりました。手綱を持つとそれなりの頭頸の形を作るようにもなりました。しかしこれはまだ早すぎたと反省しています。まだ十分には背中から後躯にかけての筋肉を発達してはいないということ。また、脚の推進とその反応が十分に理解されてはいないことです。このままではただ巻き込むようになるのではないかと思います。したがってこの時期は脚との関係作り、馬をしっかり大きく動かすことを意識して調教しました。最終的には三課目程度の運動はこなせるようになったのではないのでしょうか。非常に大きくリズムカルな歩様を持っていると思います。

冬を越え、雪が解けると障害も徐々にはじめていきました。横木通過から自由飛越、騎乗しての障害飛越まで順調にレベルアップしていきました。力があり、素直なのでまっすぐ障害にむければ強引にでも飛び越えていくという感じです。競技会にも参戦し、順次 100cm クラスまでクリアしました。まだ上のクラスでもいけるのではないかとも思いました。しかし、これもやりすぎたと反省しています。力に任せてある程度大きな障害も飛越していくものの、新馬の障害調教としてはまだまだ調教不足でした。主には踏み切り姿勢と着地後のバランスバックが不十分な点、そして馬自身の障害に対す

る気持ちにあると思います。このままでは安定した経路走行は望めず、高いクラスに挑戦すると行く詰まっていたでしょう。まずはゆっくり 100cm 以下で障害の基礎を作る必要があると思います。

今シーズンを通じて北創に期待するあまり調教を急ぎすぎたと反省しています。今後の担当者には将来のエース候補だからこそ、じっくりと強固な基礎を積み重ねていただきたいと思います。

菅原写真商会

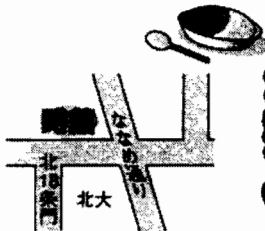
デジカメプリント

各種証明写真

北 22 条西 4 丁目 ☎716-2662

美味しさ発見

新しくオシャレになった
時の感で、一時を
すごしてみませんか。



カレーライス
焼肉丼
ソフトクリーム
各種あります。

営業：11:00~24:00
N18 W7
TEL 726-0158

カレーから明日を見つめる

自由人舎 時館

学生割引あり



カットイントライ

北23条西5丁目山水ビル2F TEL011-747-1058

- 受付時間 AM10:00~PM8:00
- 定休日 毎週火曜日・第3月曜日

北終（サクラロイヤル）



セン サラ 栗毛

平成 13 年 4 月 9 日生

北海道静内郡静内町産

父 サクラローレル

母 サクラユスラウメ

平成 18 年 6 月 24 日入厩

調教報告

谷山 直美

ロイヤルに鞍をつけて乗り始めたのは代替わり後からでした。チーフはOBの林兄にお願いしていましたが、現役員でこの馬の調教に関わった馬責という立場からこの馬とやってきたことを書きたいと思います。

ロイヤルは大人しく素直な性格であったが、素直ゆえにとっても頑固でもあり、嫌なことは頑としてしない感じだった。人がかなり強く出て行かないと従わず、林兄にしばかれていることもしばしばあった。調教する上で、新馬などは特にわがままを覚えさせないためにも、馬に負けない強さが必要だと思う。私にはそのような「強さ」が不十分で、林兄の力を多くいただいた。

<調馬索および調教道具について>

1年間通して、調馬索運動はコンスタントに行った。乗ってどうこうできないので、シャンボンをつけて頭頸の伸展を促した。しかし、初めの頃シャンボンの作用を理解せず、ずっと頭の位置が高いままであった。胴が長く、体形的にも頭を上げていた方が楽なのか、頭を下げようとしなかった。しかし、道具の作用を理解しないことには意味が無いので、馬に分らせるよう初めだけ紐を短くしたこともあったが、楽になる方向を見出せずにパニック状態になることもあり、危険であった。まずは曳き馬の状態からシャンボンの作用をしっかり理解させる必要があった。シャンボンの作用を理解したのは、半澤杯前に札幌競馬場乗馬センターの歌川先生が馬場にいらしたときのことであった。調馬索をハミにかけ、索を短く持ち、シャンボンと同様にハミに強く作用させた。頭を下げたがらず反抗し、暴れたがそれでも人が馬に負けず馬が譲ってくるまで持ち、譲ったら楽にしてよく愛撫してやるというのを繰り返しているうちに、ロイヤルも理解したようであった。それまでは、馬が暴れる恐怖心から中途半端に作用させていたためロイヤルに理解させることができなかったのだろう。とにかく、歌川先生のおかげでロイヤルは顎を譲り頭を前下方へ下げることを覚えた。

その後調馬索運動でも同様にし、譲るようになった。巻き込みを覚えさせないようによく追って前に出した。前に出すために駈歩にすることはあったが、シャンボンをつけていると頭が上げられなく作用がきついため、基本的には速歩までとした。また、移行を行うことで馬の前進氣勢が道具にぶつかること、横木通過を行うことで跨ぐ時に自らより動こうとすることにより道具の制限を受けさせ、

その抵抗から逃れる方向を見出させるようにした。

シャンボンの他にも、折り返し手綱やサイドレーンを試しにつけてみたこともあったが、そのような強力な馬具はリスクが高く、道具が先行してしまいがちになるので使用は控えた。道具はうまく使えばいい成果が得られるが、知識・技術なしに使うのは非常に危険であると思う。また、調教段階がその道具を使う調教段階に達しているかというのも重要である。今回の場合、シャンボンの作用を十分に理解しないままに索で運動させていたことは、一つの反省点である。

<フラットワークについて>

調馬索のときは頭を下げるようになったが、乗るとハミを嫌がり頭を上げてしまっていた。また体がかたく、右手前は内方姿勢をとらず外を向いて回り、逆に左手前は内には向くが肩を張って外に逃げる傾向があった。そのようなことを札幌競馬場乗馬センターの八巻先生に相談すると、快く乗ってくださった。まずハミ受けができないことには何もできないということで、何も知らないロイヤルにハミ受けのいろはから教えていただいた。繊細な拳でもってハミをかけてやって誘い、馬が頭を伸ばしたいときに伸ばしただけ伸ばせるよう柔らかい拳でついていき、人が拳を上げるのに対し馬が前下方にハミをもっていくようにした。八巻先生が乗ると、あんなに頭を下げたがらなかったロイヤルも完全に受けているとはいかないまでも、ハミをくわえ、乗馬らしく歩くようになり、それはまさに馬“術”であった。以前のようにハミを嫌がって思い切り頭を上げることはなくなった。そのような術は私には使えないので、私が乗るときは軽いコンタクトで運動した。移行の際は音声の補助によって移行できるようにした。林兄が乗ったときは頭を下げて運動できていたが、口をいじると誘導しづらくなり、結局は前肢旋回など、脚に対する反応を高めること、右手前の運動を多くいれやわらかくすることを求めた。

<障害について>

障害は、飛べるからといって高い障害を飛ばすことはせず、低い障害を繰り返しやった。冬の間も円馬場で低い障害を飛んでいた。雪が解けてからは、馬場を大きく使い駈歩での横木通過から障害に向かうことで、馬がリズムよく障害に向かえるようにした。1本目の横木を突いて跨いでしまうとその後うまく障害に向かえないので、2本重ねておく、あるいは高さを付けるなどして、1本目の横木を確実に飛び越えさせるようにした。それから、コンビネーションや常歩飛越なども行った。最終的には低い障害の経路まで行った。

私が乗るときは、基本的に「馬にやらせる」ではなく、「馬がする」ように心がけた。もちろん、馬に無理やりにもやらせないといけない場面もあるが、そればかりだと馬も嫌になってしまうし、無理やり従わせる力強さも技術もないので。何かモノを飛ばせるときでも、まずは曳き馬で馴致した。私は、この曳き馬での関係作りをととても大切にした。曳き馬中はしっかり自分に集中させ、曳き手なしでも自分についてくる状態にした。馬場の中の障害、外の野外障害をよく見せた。それから、一緒に横木を跨いだり、一緒に走ったり、低いクロスを飛んだり、リバプール、バンケット、外の障害、人が飛べる範囲のいろんな障害を一緒に飛んだ。最初は嫌がることもあったけど人が先に飛ぶと安心するのか、ロイヤルはついてきてくれた。障害に対して走っていつてしまう馬でこれをやると危険と

思われるが、ロイヤルはそのような傾向はなかったし、音声の扶助もよくきくので問題なかった。この馴致の甲斐あってか初めて乗ってモノを飛ばすときも無理やり追う必要はなかった。バンケットでさえ、軽い圧迫で落ち着いて上り下りした。人が乗って飛ばそうとしても飛ばない障害でも、私が下にいて曳いて一緒に飛んだら飛ぶこともあった。

また、北大ではエサを多用する傾向があったが、エサばかりやっていると馬はそれのためにやるようになってしまう、また、エサをやるタイミングが遅れてしまうと馬は何に対してご褒美をもらっているか分からないと思ったため、ロイヤルにはエサはなるべく使わないようにした。エサよりも人に褒められることがご褒美であった方がいいと思う。あまりにも障害に対して嫌気がさしていたときは、エサの力を借りることもあったが。

以上、思いっくままに書いてしまいましたが、ロイヤルと過ごした日々はとても楽しかったです。たてがみを編んだり、草を食べさせたり。一緒に歩いて、一緒に飛んで、ただバカなのかこんな私でも信頼してついてきてくれているのか、とにかくとてもかわいいやつでした。念願の「チーフ」にはなれなかったけど、1年間ずっと1頭の馬について馬とともに成長できたこと、1頭の馬に愛情を注いだこと、とてもよかったです。競技馬をもつのはまた違った楽しさがあったと思います。ロイヤル、本当にありがとう。

最後に、相談にのってくださり、お忙しい中乗りに来てくださった八巻先生、歌川先生には大変よくしていただき、お世話になりました。この場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございます。そして何より、チーフの林兄。当初私が馬責として林兄をサポートする立場であったのに、途中からはある程度私に任せてくださって、逆に私がサポートしていただきました。林兄には、この馬を通してだけでなく、日ごろから大変お世話になっていました。林兄は先輩として尊敬すべき人であり、いつまでも手の届かない“目標”な気がします。本当にありがとうございました。



ネイチャーヒーラー



セン サラ 栗毛
平成 10 年 4 月 11 日生
アメリカ産
父 Valiant Nature
母 Mintullah
平成 18 年 9 月 18 日入厩

入厩報告

山川 倫明

今振り返ってみると、二年生の秋の時点で、僕がネイチャーヒーラーのチーフとなり、しかも、それが二頭目の担当馬だったというのは、技量・経験の両面から考えて、荷が重かったと思います。北大に入厩するまでの一年程、すでに乗馬として調教されていたとはいえ、脚の扶助に対する理解などは乏しく、新馬であるという印象は拭えませんでした。それ以外にも、様々な問題を抱えていました。元々がカリカリした性格で、落ち着いて運動できないことや、手綱を強く握ると、巻き込んでくることなどです。人が自信を持って対処していけば、問題はなかったのかもしれませんが、何かから手をつければよいかもわからず、周りの声に惑わされてばかりでした。まず、最初に悩んだ点は、巻き込む点をどうするかという点でした。そのまま乗り続け、徐々にハミのついてくるようにするのか、それとも、地道に扶助を教え、正しいハミ受けを教えていくのか。周りのアドバイスを参考にし、すぐに冬に入るということで、地道に扶助を教えていくことにしました。具体的には、前肢旋回などによって脚を理解させることに重点を置いての運動でしたが、確信が持てないせいか、結局、これといった成果のでないまま、春を迎えることとなりました。

春以降についてですが、雪が融けても、急いで障害をやろうというつもりはなかったのですが、そろそろ手をつけなければいけない、というプレッシャーはあるもので、次第にそれを意識した練習の組み立てをしていかなければならなくなりました。そうすると、頭を突き上げた状態で運動するわけにもいかず、巻き込むことには多少は目をつむり、入厩当初のような感じで乗ることにして行きました。この方が、頭が高い状態よりは、歩調は落ち着くので、乗っている人からしてみれば乗りやすいのです（今考えると、根本的な解決にはなっていなかったのですが）。この時に、頭を下げさせようという意識が先走り、拳が強くなってしまったためか、馬が左のハミに対して突っ張ってくるようになり、つれて、右肩を張ってしまうようになりました。また、人も自然と拳を下に押さえつけるような乗り方になってしまいました。このように、やり方を間違えると、様々な弊害がでるものだとことを実感しました。左のハミに突っ張ることにはその後も悩まされました。頭を下げた状態で、常歩・速歩・駈歩がある程度スムーズにできるようになった夏頃からは、次第にゆったりとした駈歩の中で、障害を跳ぶ練習をして行きました。最初は、低い障害から始めていき、慣れていくにつれて、

高さを上げていきました。もともと北大に来る前から障害を跳んでいたのですが、90cmくらいまでの障害は難なくクリアしていき、シーズンの終わりのOB戦で、このクラスを満点で走行するところまでは何とか辿り着けました。ただ、障害の練習法については、ただ駈歩で跳んでいるだけの単調なものになってしまったのが反省点です。このやり方だと、目先の低い障害であればとりあえずこなせるようにはなるかもしれませんが、先に見据える高い障害には繋がっていかないのは十分承知であり、もっと工夫が必要であったと思います。

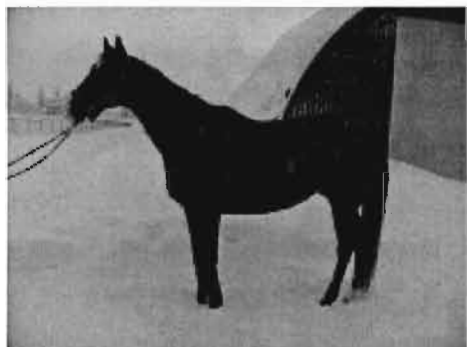
以上に述べてきたように、跨っているのが精一杯の一年間でした。新馬を任されたことの意味を理解できていなかったような気がします。僕がしなければならなかったのは調教であって、自信をもって毅然とした態度で馬に色々なことを教えていかなければならなかったのです。そう考えると、できたらよく褒めてあげることなど、下手なりに馬のためにできることはもう少しあったのではないかと思います。あともう一つ触れて置かなければならないのは、馬体管理についてです。放牧中の事故などで大きな怪我をして、長い間乗れなくなったことが、何度かありました。馬にはとても悪いことをしてしまいましたし、そのせいで、せっかくそれまで練習が好調でも、流れが途切れてしまうというもあるので、そのあたりの責任をもっと持つべきでした。

11月の代替わり後も、ネイチャーヒーラーと引き続きコンビを組めることになりました。反省点を生かしていけるのは幸いなことです。ここからの内容は、正確には次号の部報で述べるべきなのでしょうが、ぜひここで少し触れさせて頂きます。やはり、基本である脚の扶助を理解していないと、前進はできないであろうと考え、また地道に教えていくことにしました。今回は、停止・常歩をとことん繰り返すようにしていき、反応があるとしっかり褒めてあげるようにしています。元々敏感な馬であるため、この方法は効果的であったようで、馬がしっかりと人の指示を待つようになり、後肢の踏み込みもよくなり、日に日に力強さを増していくような気がしています。それに伴い、左のハミに突っ張っていたのは、少しは和らぎ、巻き込みについても解消され、ある程度ハミにのった状態で頭の位置が安定するようになりました。過去の経験は確実に生きています。きっと次号の部報では、成長したネイチャーヒーラーの姿をお伝えできるのではないかと思いますので、期待してください。

◇北旋風号離厩特集◇

◇離厩報告◇

北旋風（トルネードダンサー）



セン サラ 鹿毛

平成2年3月26日生

北海道沙流郡門別産

父 アスワン

母 ティージーブイ

平成5年9月4日入厩

離厩報告

山中 謙司

平成19年10月7日、北旋風号はメインフィールドに離厩しました。理由はハ行により満足な運動ができなくなったことです。

代替わりよりトルとコンビを組み北日学に出場することを目標にのりこととなった。トルはできあがった馬で、調教がどうこうというより人が馬から学び、経験を積むことが重要だった。

北日学の際にハ行してしまったので乗りはじめたのはOB戦の後だった。前チーフの久保兄には調馬策の回し方から教えていただきながら雪が降るまでは馬の状態的に少し無理をして乗っていた。これは人が初めてのチーフであり乗れる時期に久保兄に見てもらいながら乗ることが目的であった。そして冬の間はシーズンに向けて馬体の回復をはかるためにほとんど運動を行わなかった。時折、馬がはってきたときに調馬策を回す程度であった。

そして、雪が解け乗れるようになると常足から徐々に運動量を増やしていった。そして半澤杯には出場せずに新緑大会から試合に出ることを目標とした。馬体のことを考え、常足を中心に速足では軽速足のみを行い、障害練習も必要最低限にとどめた。そして新緑大会はLAに出場し、満足な走行ではなかったものの減点0で回ってくることができた。

新緑大会終了後はMDクラスを目標にした。この頃、馬体のことを考えて運動量を少なくし、障害もそれほど飛んではいなかった。トルなら大丈夫だと考えていて、少し飼料を減らしたこともあって馬体がさびしくなってしまった。実際、春自馬ではMDクラスに出場したが失権してしまった。やはり考え方が甘かったと思う。

僕はシーズン当初からジレンマを感じていた。馬体のことを考えるとなるべく運動はしないほうがいい。しかし、人のことを考えると運動量を増やして練習するほうがいい。そのジレンマの中で中途半端になっていた。そして、トルには申し訳なかったが多少無理をしてでも乗り、人が練習を積み重ねることにした。また普段の練習から慶応大馬術部OBである貫名氏に見てもらい色々なアドバイス

をしていただいた。

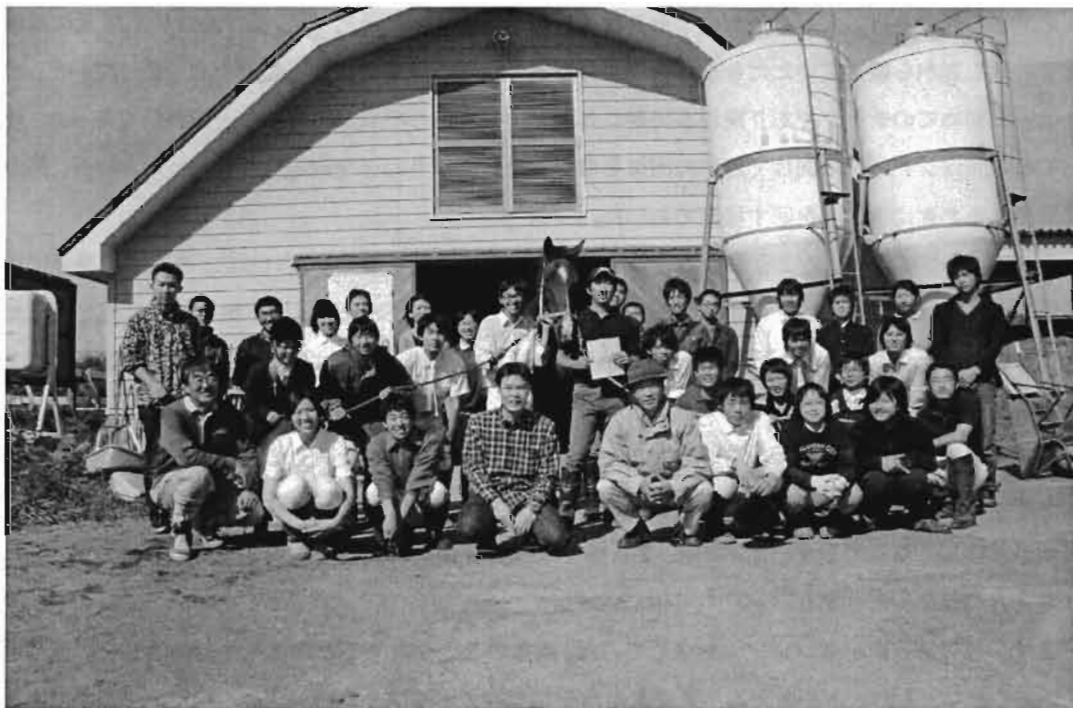
その後は公認大会、国体予選と試合を使ったがどちらも失権してしまった。トルは素直で向けた障害は落下をしても飛ぶという前向きな馬だったが、シーズンの途中から馬が障害を飛ぶことに対して自信がなくなっていたように思う。そんな状態にしてしまった自分に深く反省している。

その後、練習で調馬策を回していたらかなり歩様が悪くなり、それ以後は運動を行わなかった。そして話し合った結果、メインフィールドズに離厩することになった。

トルは14年という長い間北大馬術部のためにがんばってくれました。全日学出場を果たしてくれましたし、これほど長く活躍できたのは歴代チーフの方や、諸先輩方のおかげです。本当にありがとうございました。また、練習を見ていただいた久保兄、貫名氏、たびたびアドバイスをくださった竹田兄にはお世話になり、ありがとうございました。トルから学んだことを、残り少ない馬術部生活ですが生かして生きたいと思います。

年が明けてからメインフィールドズにトルの様子を見に行きました。新しい環境にも慣れたようで、いつものように遠くのほうを一点凝視していました。馬体も徐々に回復しているようで常足での運動を再開しているとのことでした。あまり無理をせず末永く活躍して欲しいと思います。

トルありがとう。ゆう癖はするなよ。たまには遠くを見るだけでなく、手入れしている人にも関心を持ってくれ。俺のこと忘れないでくれよ。最後に、右後脚は素直にあげるようにしてくれよ。本当にありがとう。



無事卒業できてほっとしている。

そんな感じだろうか。それとも定年退職かもしれない。

「出来の悪い子ほどかわいい。」

少しニュアンスは異なるが、トルネードと入厩より付き合ってきたものの一人として、

- ・ 全日出場馬となったこと
- ・ 馬術部に長きにわたり（14年間）在籍したこと

当時はとても想像もできなかったが、今は無事勤めを果たして、うれしくもあり、またちょっと安心もしている。

はじめ

一度でも乗ったことがあれば分かると思うが、決して乗りやすい馬ではない。

「でかくて、曲がらない、停まらない、棒のような」馬だ。

入厩当初、下級生だった私は、存分にその洗礼を受け、度々馬場のかなたへ連れ去られたものだ。それなのに、のちに自分が乗ることになろうとは夢にも思わなかった。

当時、古馬からの代替わりが盛んに推し進められていたため、馬体が大きいこと、それにも増して、なにより丈夫なことから、連日、馬場に障害にいろいろな人に乗り倒されていた。夏の時期、畜大の野外馴致に2週つづけて行ったこともあった。まさにスパルタである。彼はいつも困った顔、泣き出しそうな三角目をしていて、けれども、その結果として、後に障害馬として認められる基礎が培われたのだろう。

乗馬人生

OBになってからも含め、札幌にいた6年間、ほんとうに長い時間トルネードに乗った。現役の頃は何もできなかったもので、ただ乗るしかなかった。その永遠の積み重ねから、何か馬に乗ることの捉え方みたいなものが、漠然と形作られはじめたのがOBになってからだと思う。（どなたか「十年乗ってから始まり」なんておっしゃってましたね。）まさにその経験から乗馬人生が始まったと思う。また、その過程で後輩の全日出場に少しでも協力できたのはうれしい限りだ。

馬術部を卒部し10年が経ち、その間、何度か騎乗する機会があった。その度にあのときの苦い思いが蘇えることもあったが、時代を超えて馬と会話ができたようでうれしかった。そんな素敵な経験をさせてくれたトルネードに感謝するとともに、そんなよろこびを、馬という生き物を通して継いでいく、馬術部というものに関わられて、ほんとうによかった。

トル、ほんとうにお疲れ様でした。ありがとう。

古い全日本学生馬術大会のプログラムを見ると、北旋風号とのコンビで二回走行に出場登録されている。数年振りの団体出場を組んでいた当時の主戦馬が故障していたため、その代替馬としての登録だった。北旋風号も脚元が万全ではなかったため実際には出場することはなかった。北旋風号のその後の活躍を振り返ると、あのとき無理に出場しなくて本当に良かったと思う。

北旋風号の特集号の原稿の依頼があったとき、このときの経緯について書こうかと思っていたが、それはいまさらあまり意味があることではないし、それよりも北旋風号を長い時間見てきたひとりとして何か書けないかと考えて上記のタイトルとした。

新馬として北旋風号が入厩した当時、あれほど脚元に不安が少ない馬はいなかった。それはトルネードダンサーとして競走馬を引退したときの理由が心肺機能によるものであったからだろう。おそらく大きな体にまだ若い成長期の段階ではついていけない部分があったのだと思う。北旋風号は粗削りではあったけれど、しかし素質にあふれたところがあり、それが北旋風号の長所のうちのひとつだった。まだ新馬のときの部班の練習中に仮柵として設置していたMA級の大きな垂直を飛越したときには、その潜在的な能力に驚かされたものである。

そんな若い北旋風号の初期調教を支えていたのはチーフだった先輩はもちろん当時の馬匹管理者の保坂さんだったと思う。夕当前の空いている時間に主戦馬のファストバロン号の曳き馬に来ると、北旋風号と保坂さんに良く先を越されていたものだった。練習においても円馬場で調馬索をととてもいいに行われていたことを憶えている。それから当時の練習方針でもあったが、徹底したコンビネーションの繰り返しで北旋風号の前向きさと素直さを活かしつつ、箱物や連続にも物怖じしない前進氣勢をつくりあげたのだろう。繰り返しの飛越練習を行える体力も長所のひとつだった。

そういった日々の手入れや練習の積み重ねは信頼関係の構築のプロセスということができる。意識できるかできないかによらず手入れや練習で馬を裏切る結果になってしまうことは少なからずある。けしてプロではない部員が調教を進める以上、人馬の信頼関係を構築することはとても難しく、だからこそ真剣に取り組むべき課題だと思う。

最近はやめて伸ばすという指導方針が一般的ではあるが、プロスポーツを見ているとかならずしもそうではない。もちろん信頼関係のうえに支えられたという前提ではあるが、団体競技の一部には徹底した厳しさがあるように見えるものもある。それでもチームが機能するのはモチベーションを維持するだけの指導者との信頼関係があるからだろう。

部報の調教報告に次のような文章がある。

”山口兄は馬に対して絶対に妥協を許さない人で、時にはやりすぎでないかと思うほど強く馬にあたることもあったが、それでも馬がふてくされなかったのはそれ以上によく馬を誉めることができていたからだと思う。”

(部報49号 北鳳号調教報告)

この文章は北旋風号のチーフでもあった山口の騎乗について書かれたものであるが、北旋風号の調教をステップアップさせたひとりが山口であることが良く分かる。北旋風号との約束事をいねいにお互いに納得できるまで確認する練習は初期調教を担当した鏑木さんや谷地さんにも通じるところがあったし、その後も引き継がれていたように思える。

幸いなことに北旋風号が最後に出場した北日本学生馬術大会の二回走行の試合を観ることができた。当時のチーフであった久保とは大会の直前に話す機会があり、しっかりした考えを持っていることが伺えたし、実際の試合でも基本に忠実に騎乗していた。初期調教を思い出させるていねいな調馬索にはじまり、できるだけ体力を消耗しないようにしつつ、ひとつひとつの運動をしっかりと確認して準備運動していた。本馬場でも北旋風号でここまでの走行ができるのかというくらい繊細な騎乗だった。結果論でいえることはいろいろあるかも知れないが、最後は本当に力尽きてしまったのだと思う。それだけ馬体に無理が来ていたことは明らかだった。だからこそ人馬に対しておつかれさまという言葉が自然に出てきた。

北旋風号のような馬を体系的につくることはできるのだろうか？まともなく文章を書いてきたが、そのなかにその答えとなるようなものはあるだろうか？これから新馬を担当するひとたちはこれまでの北旋風号の関係者と話をする機会があれば良いと思う。これだけたくさんの部員が携わってきた馬はそうはいないし、OB と現役の部員がおなじ馬を通じて話しをできることはとても貴重なことだと思う。もしそのような機会があり、それが今後の新馬の調教につながればとてもすばらしいことと思う。

こんなにも多くの部員を乗せた馬も、なかなかいないのではないのでしょうか。

僕が現役だった頃のトルネードは度重なる怪我にも負けずに、新勧、部班、障害、野外、試合、と数多くの騎乗メニューを、文句ひとつ言わずに黙々とこなしてくれ、多くの部員が下級生の頃にお世話になった1頭でした。トルとの思い出を持っておられる方も数多くいらっしゃると思います。

僕自身がチーフとしてトルネードと過ごしたのは半年ほどでしたが、馬術部で最初に障害を飛越させてもらったのも、最後に障害を飛越したのもトルネードでした。

その中で思い出といえば、4年生の最後の全日学です。最近流行のFA選手ではなく、北凌・北旋風・北彗という北大生え抜きの3頭で総合団体出場を果たすことができ本当に感謝しております。(その中で、北大に残っているのは北彗のみ。しかも一番の古株になっているそうで、本当に時が経つのは早いですね。) 生え抜きということは、馬術部の先輩諸兄の手で育てられてきた馬達ということであり、多くの方々からエールを頂戴したことを今でもはっきりと覚えております。

怪我のせいでまともに運動できなくなり今回離厩することになったと聞いておりますが、年齢的なものと今までの彼の頑張りを考えれば致し方ないことなのかもしれません。

こうして馴染の馬がまた一頭北大を去っていくのは淋しい気がしますが、世代交代は世の常です。彼の代わりとなる期待の新星が誕生してくれると信じています。長い間、北大馬術部の屋台骨となって活躍してくれて本当にお疲れ様。石狩に行っても元気で活躍してくれることを願います。

運悪く病気になったら呼んでください。日高から駆けつけますから。

離厩に際して原稿をとということですのでトルとの思い出を振り返りたいと思います。

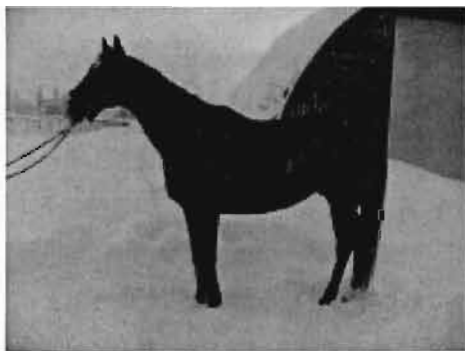
彼との出会いは私が馬術部に入部してすぐの時で、私を含め新入部員の練習によく付き合ってもらいました。最初の思い出は進行方向を変えることができずにひたすらまっすぐに歩き続けてしまったことです。他馬の場合でも苦労しましたがトルの時ははるかに苦労した気がします。この当時のトルは私がチーフをしていた頃と比べまだ筋肉がしっかりついていて若々しかった記憶があります。

そんな彼のチーフになったのは05年の秋です。故障明けであり休養をしっかりとったほうがよいと判断したためまともに運動を始めたのは翌年の雪解けのころになってしまいました。詳しくは去年度の部報に書きましたが筋肉がごっそり落ちてしまい見た目からも年齢を重ねたことがわかる状態から何とかよく持ち直してくれたものです。最後は福島への輸送で状態が悪くなってしまい残念な結果になってしまいましたが、自分でスケジュール・プランを考えて仕上げていけたことには満足しています。

今回の離厩は私が担当した時期を含め数年間故障を繰り返し最終的には馬術部の競技馬としては復帰が難しい状態になってしまったことが原因だと思います。故障明け後復帰のタイミングの判断は難しく、また鞍数を作らなければならない部の状況や早く乗りたいという焦りのためどうしても早めの復帰になってしまいがちです。チーフが第三者的な目を持つことも重要ですし、チーフでなくても全馬の状況を把握するように心がける必要があると思います（言うのは簡単で実際難しいことは現役時代を通じて理解していますがそれでも）。

トルと過ごした日々はとても貴重なものでその時の経験は社会人になった今でも活きることはたくさんあります。彼には感謝の気持ちでいっぱいです。最後に彼の余生が彼にとって幸せなものであることを願って締めさせていただきたいと思います。長い間お疲れ様。

◇入厩報告◇
サクラフォルツァ



セン サラ 鹿毛
平成 16 年 5 月 24 日生
北海道 静内郡 静内町 産
父 カリズマティック
母 サクラキャンドル
平成 19 年 11 月 9 日 入厩

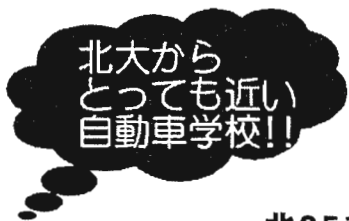
入厩報告

宮本 亮

サクラフォルツァ号は北終号、北創号と同じく新和牧場より 11 月 9 日に入厩しました。性格は非常に温厚で、あまり人に迷惑をかけることもありません。お母さんはエリザベス女王杯を勝った G I 馬です。その血統背景がよい方向に向いてくれればと思っています。

Let's Get a License

- ☆ 毎日入校 O K
- ☆ 日曜・祝日も教習&検定実施
- ☆ 朝 9 時～夜 10 時まで教習
- ☆ 各方面無料シャトルバス運行



普通車・自動二輪・大型特殊

セット で取ればさらにお得♪♪

<普通自動車・大型特殊・普通二輪・大型二輪>



北 25 条



北海道中央自動車学校

札幌市東区北 25 条東 1 丁目 1-17

TEL 711-3344

<http://www.hokkaidochuo.co.jp/>

◇OB 寄稿◇

イギリスの学窓から（馬といろいろな雑感）

近藤 喜十郎 （昭和 41 年卒）

今回は馬を中心に感じたり、思っている事をあれこれ雑感を交えて書いてみようと思います。私は国際馬術教官の資格を取るために 3 年間 Hartpury College (Gloucester) 学び、その後、もう少し Scientific な面から馬を勉強してみようと Nottingham Trent University (Nottingham) で Bsc(Hons) Equine Sports Science を 学んでいます。動物学、特に馬を専門に学べる学部は残念ながら日本には見当たりません。戦前には馬を専門にする著名な学者も多くおられましたが、戦後は Industry として馬関係が小さくなってしまい、社会からの要求も殆ど少ない為に専門の学部がないのは残念です。北大馬術部の身近なOBには、馬の繁殖学で海外にも著名な小栗紀彦博士（昭和 41 年卒）や、一時浦河で障害者乗馬指導者の学校を開かれた千葉祐記さん（昭和 37 年卒）などの活動があります。

翻ってイギリスを中心に馬の事情を見てみると、英国内には約 100 万頭の馬がいて、人口（約 7000 万）の 5% ぐらいが週に一度以上は馬に乗っています。すでにこの国では農業に馬を動力として使用することが禁じられています。さらにアメリカ、ドイツ、フランス、スペイン等、世界主要国の乗馬は約 1100 万頭を越すといわれています。

日本での乗馬は残念ながら文化としては育ちませんでした。地形的にイギリスのように広大な牧草地にできる地形がありませんが、北海道ではイギリスに近い地形があります。飛行機から覗くと広大な馬を飼って育てる環境が整っているのが見受けられます。只、文化的にイギリスの田園地帯での生活意識とは根本的に異なるので、残念ながら日本では sports や relaxation としての乗馬を楽しむ人は少数派です。

歴史的な面から日本の馬術について翻ってみますと、明治の初めに騎兵部門が創設されヨーロッパから乗馬技術と軍馬を導入しました。日清、日露の戦争に勝利し騎兵の重要性が認識され脚光を浴びましたが、第一次世界大戦での機関銃と戦車がそれまでの戦争 system を変えてしまいました。日本でも大東亜戦争（太平洋戦争）の末期に習志野の騎兵師団は戦車隊に変わってしまいました。

大東亜戦争の戦場は主に太平洋の島々でしたから馬の活躍するところは限られましたが、ヨーロッパ戦線ではドイツだけでも約 100 万頭の馬が使われています。主に輜重の運搬でしたが、ポーランドの砲兵隊は馬を使っていました。

第二次世界大戦後には、騎兵隊は無くなりましたが、私が実際に見た限りではイギリス、フランス、スペインでは兵隊の一部かもしれませんが現在も馬術を習っていますし、訓練施設もあります。女王陛下の guard として有名な Horse Guard の兵士は馬と戦車の両方の操作技術を学んでいます。効率を中心に考える日本の現在の体制では自衛官が訓練として乗馬を習う事は考えられません(近代5種の選手は例外です)。この点も文化の違い、馬とのふれあいの歴史の深さの違いを感じます。

日本では大日本帝国陸軍騎兵師団の消滅とともに馬に関係した多くの団体や施設が縮小か断絶となりました。北大馬術部 30 年史を見ますと戦前は旭川騎兵連隊との交流もあったようです。旧軍で馬に携わった人たちの一部が各地で乗馬クラブを作りました。その一つが山形県にありました。そこで故山村勝氏(昭和 41 年卒)は他界されるまで未成年とくに小中学生を中心に指導していました。私ももう 20 年以上前ですが、三重県でやはり旧軍で馬に係わっておられた方が経営していたクラブで三重国体の前後に乗せてもらっていました。

馬学とくに乗馬についての体系的な指導や啓蒙を得られる所が広く門戸を開いていなかったのは馬術に興味を持った多くの若者にとって不幸でした。

その為、個人が得た経験的な指導や取り扱いが今でも横行しているのが日本の馬術界ではないでしょうか。無論、その傾向は年々減少してきていると思います。それは、海外で騎乗の体験や研修を受けてきた rider が増えてきたからでしょう。以前は一部の馬連から派遣されたり、選手として海外での経験を得た人たちだけでした。

振り返って海外経験者を見ても、千葉幹夫先輩(昭和 34 年卒)の功績はとても大きいと思います。日本で野球選手として活躍し、現在でもアメリカで頑張っている野茂選手の功績があるからこそイチロー選手を始め多くの日本人選手が大リーグで活躍しているのと同じ であると感じます。

千葉先輩はご存知のように東京、メキシコの両オリンピックにて活躍され、その後フランスの Saumur にある国立乗馬学校に留学されました。そして現在でも岩手県遠野において「日本唯一の乗馬専門の繁殖施設」<遠野うまの里>で日本乗用馬の生産にあつたておられます。私も Saumur を訪ね 5 日間に亘りいろいろ見学しましたが、その教育方針、技術はとても深い歴史と伝統それに高度な技術レベルを感じました。

地理的、気候的な handicap を乗り越え現在の大学生 level に北大馬術部の部員が肩を並べるのは難しくありません。一番困るのは自分で考えた disadvantage を信じ(例えば、冬期は土の上で乗れない、日が短い、大学に入ってから始めた。等))突き破ろうとしない頑迷さです。(それは大東亜戦争前に大日本帝国陸海軍が持っていた考えとよく似ていると思います。) 広くより高い面か

ら自分を見つめ直し、より多くの情報と体験を惜しまない事が大切です。現代は Internet のお陰で情報を習得するのに地理的な handicap は無くなりました。何時でも何処でも出来ます。特に馬に関しての情報には英語は不可欠です。Google を使って馬術先進国の情報を見て下さい。

それには英語の力を伸ばす事です。多くの英語学校が宣伝している「話す」ことではなく、読むそして書く事が一番英語習得では大切と私は思います。

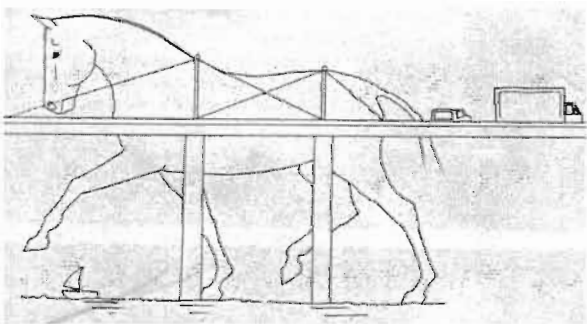
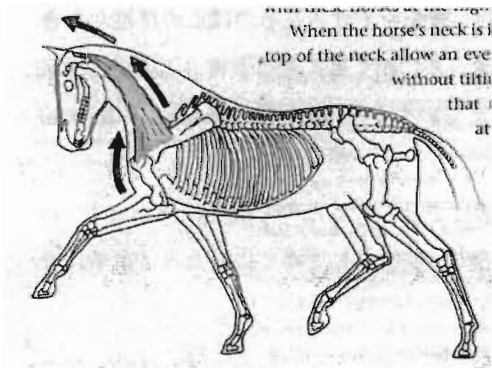
男女どちらが乗馬に向いているか

馬を効率よく、少ない力で騎手の意思に近い動きをさせるには騎手の身体が馬の動きを阻害しない事が大切です。それには重力の一致が必要です。騎手のバランスの中心は骨盤です。骨盤が安定すれば馬はより動きやすく、騎手の要求に集中出来ます。

女性の骨盤は男性に比べ広く安定しています。出産するために骨盤が広がりやすく、flexible です。それに反して男性は身体の前下部に鞍に座りにくくさせる敏感な器官を持っています。

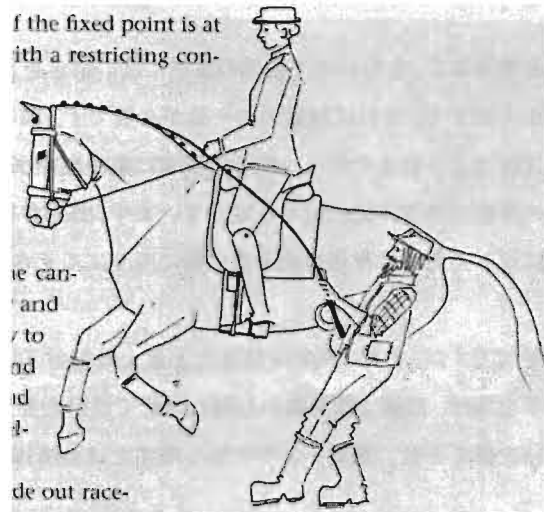
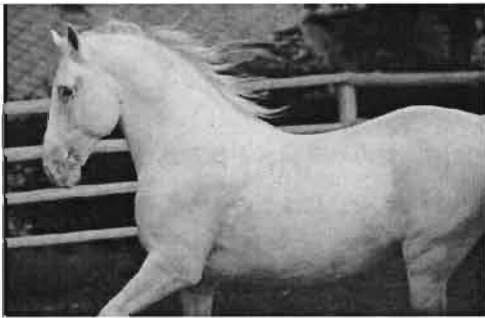
数年前ですが、北大の馬場を訪ねたとき上級生が下級生に障害でのバランスを作る為なのでしょうか手を広げ、前傾で腰を鞍から離れさせて速足を要求していました。私はこのような運動は騎手の身体を硬くさせ、落馬への不安感を増すだけの所作と感じました。

馬は何故 on the bit (くっとう) するのか



馬は体重が約500キロあり横長です。これだけの重さをバランスよく維持するのに上右の絵のように橋を支えている原理と同じです。象や犀や河馬は体重を太く大きな木の幹のような足でささええています。これらの動物は早くは走れない代わりに牙や鼻や角等の猛獣からの攻撃を防ぐ為の武器を持っています。馬には武器はありませんのでその代わり、遠くまで見れる眼、敏感な耳そして飛んで走れる足を持っています。

馬を放牧して自由勝手に突然走っている姿を思い浮かべてください。下の写真のように首を下げています。首の筋肉を上手く使っています。



馬を操作するのは上の絵で分かるように馬の力を騎手は最小限の control で操作する事が大切です。一流選手は障害の前で上体を起こし、馬の前駆を持ち上げ、後駆を下げさせるのはこの原理からきています。馬場運動ですともっと分かりやすいと思います。とにかく馬に乗ると言うことは、出来るだけ自然に、単純化して考えることが第一なのだと考えています。(資料 Christopher Bartle)

今回は Jumping、Dressage の基礎的な練習方法は書けませんでしたので次回に回します。いろいろ雑感を交えて書きましたが、現役諸君の騎乗が上達し、調教をしてゆくにあたって参考になる事を願っています。

北彗と北鳳の調教過程から考えること

平成16年卒 木村 滋之

これまで各年度ごとの調教報告はあったが、その馬について長いスパンでの調教過程を総括するということはほとんどされてこなかったように思う。今回私は自分が現役時代関わったゲネシス(北彗)とヤス(北鳳)についてそれぞれ 2006 年度までの調教過程をざっとまとめ、そこから新馬調教の進め方について少し考えたことを書こうと思う。ゲネシスとヤスの歴代の担当者の方々には何の断りもなくこのような文章を勝手に寄稿したことをお許しいただきたい。

まずゲネシスについてこれまでの調教過程および戦績をまとめると以下ようになる。

北彗 (メジロゲネシス)				
年齢	年	月		担当者
5 歳	1998 年	11 月	北大入厩	角堂兄
6 歳	1999 年	4 月	尾崎兄担当	尾崎兄
調教報告抜粋 「調馬索で背中 of 筋肉をつけることにしました。同時にコンビネーションを落ち着いたリズムで飛ばせるように毎日やりました。とても地道な作業でしたが、秋ごろには跳ねることもなくなり、かなり安定して飛べるようになったので、何度か障害の試合に出ました。(中略) 来年の夏には北日本にという声もありますが、あせらずに地道にやっというと思います。」				
7 歳	2000 年	6 月	福島野外馴致	
		8 月	北日学新人新馬 (100cm)	
		10 月	山下杯 (110cm)	
調教報告抜粋 「次回の北日に総合でデビューする予定ですが、…(中略)前シーズンのように、走行中に巻き込んでコントロールが効かなくなるようなことはほとんど無くなりよいリズムで、よい姿勢で走行できていたと思います。(中略)秋には秋の自馬体や山下杯、OB 戦に出ましたが 100cm クラスはほぼクリアしたように思います。」				
8 歳	2001 年	3 月?	放牧中に後肢を怪我、長期馬休。	
		7 月	道大会 (100cm)	
		8 月	北日学新人新馬 (100cm)	
		9 月	道大会 (100cm)	

9歳	2002年	3月	木村担当	木村
		5月	半澤杯複合(110cm)	
		6月	福島野外馴致	
		8月	北日学 総合7位	
		11月	全日学 総合29位	
調教報告抜粋				一色
<p>「この馬はとにかく怪我が多く、放牧や曳き運動などで暴れたりしてよく踏みかけをする。怪我による長期馬休が多く、そのために今まで何度も調教が中断され、9歳にしてようやく北日デビューを果たした。(中略)シーズンを通して、障害練習は単一障害を繰り返し飛ぶということはあまりせずに、コンビネーションでゆったりとうまく体を使って飛ぶことを教え、後は様々な物や形の障害を低い高さで、ランダムに出来るだけ馬まかせで速足や駆足で廻ったりした。」</p>				
10歳	2003年	6月	腰を痛める。	
		8月	北日学 二走失権 総合9位	
		11月	全日学 総合12位	
			一色担当	
11歳	2004年	8月	北日学 二走3位 総合5位	
		11月	全日学 二走失権 総合37位	
12歳	2005年	7月	道大会(120cm)	
		8月	北日学 二走10位 総合3位	
			全日学 二走失権(二走目1落) 総合失権(調教失権)	
13歳	2006年	6月	道大会(120cm)	
		8月	北日学 二走4位 総合6位	
		11月	全日学 二走22位 総合42位	

トルネード以降、北大調教の権利馬がなかなか育たなかった中で、なぜゲネシスがここまでの成績を残す馬に育ったのか、私なりに考えてみた。様々な要因があるだろうが、中でもゲネシスが恵まれていたのは、尾崎兄が3年間という長いスパンで調教を担当したことであろう。

調教初期のゲネシスは、経路走行中は巻き込んでコントロールがきかず、障害は体を使わずバネだけで飛ぶという状態であったが、尾崎兄の地道な調教によって2年目のシーズンにはある程度100cmクラスを安定して走行できるようになり、110cmクラスにも出始めていた。当然次のシーズンは現役に引き継いで北日学の総合に出場する予定であったが、春先の大怪我によってもう一年尾崎兄が担当し、そのシーズンは100cmクラスを中心に現役を乗せながら試合をこなしていた。あくまで結果論でしかないが私は、この怪我によって北日学デビューが遅れ、もう一年100cmクラスを続けたことが、その後の調教をスムーズにした大きな要因ではないかと勝手に考えている。2年目のシーズンでは順調に100cmクラスをこなしてきたが、馬にとってはようやく慣れてきたというところではなかったかと思う。3年目のシーズン、怪我が治ってからは試合で現役が乗って失権等もしていたが、それでも馬にとってはクラスを上げる前によい経験を積んで、ある程度余裕が出てきたのだと思う。

新馬の調教にあっては調教者が馬の成長を待ってあげる心の余裕が必要であると思う。調教技術が未熟であれば特に、時間が解決してくれることは多い。しかし北大馬術部においては、調教者が1年ごとに代わったり、北日学にデビューさせなければならなかったり、調教者はどうしても先を急ぎがちである。そのよい例がヤスであろう。そこはまた後で述べるとしよう。

もうひとつゲネシスが恵まれていたのは、福島の野外馴致に2回も行ったことであろう。野外で様々な障害を飛ぶことは、新馬にとってもまた騎手にとっても貴重な体験である。帯広畜産大学が毎年安定した成績を残しているのは、野外コースのおかげであるといっても過言ではない。輸送費がかかりすぎるということで福島の馴致は行われなくなったが、今後も積極的に帯広畜産大学などを利用させてもらって、野外を練習する機会を増やしていただきたい。

一色が担当した期間は、3年連続で二走・総合で全日学に出場し、最後の年は二走で入賞するという素晴らしい成績を残しているが、本来ゲネシスは120cmまでの馬であると思う。普通の馬なら、高い障害をクリアするために飛びを上へ上へと改善していくものだが、ゲネシスは潔癖性が強すぎるため、障害が高くなると次第に飛びが上がりすぎて幅が飛べなくなり、走行のリズムも崩れてしまう。この馬の場合は逆に飛びを前へ前へと改善していくことが重要で、そのためには定期的に野外走行を行うことが不可欠であると思う。

次にヤスのこれまでの調教過程と戦績をまとめた。

北鳳 (ヤスノインディアン)					
年齢	年	月		担当者	
5歳	2001年	秋	メインフィールド入厩	尾崎兄	
		12月	北大入厩		
6歳	2002年	5月	半澤杯 (90cm)		
		シーズン	ノーザン新馬戦 (90cm～110cm)		
調教報告抜粋					尾崎兄
<p>「同馬の実力は素晴らしく、自分の騎乗期間が約1年間という限定のものであったため、自分で同馬の能力を試したくなってしまった。(中略)昨シーズンは、新馬戦を連戦し活躍してくれたが、これで万事大丈夫というわけではない。自分がやったことは飽くまでテストである。たいした調教などしなくても、この馬はこのくらい出来るということを確認しただけである。」</p>					
		11月	木村担当	木村	
7歳	2003年	8月	北日学 総合失権		
調教報告抜粋				木村	
<p>「この馬は、尾崎兄が新馬戦で活躍したことで分かるように、類まれな才能を持っている。最近、二走馬が育っていない中で久しぶりに期待できる器である。(中略)ヤスはバスキュールが悪く、背を張って飛ぶいわゆる“蠟燭飛び”の気があり、幅が飛べないためオクサーに対してコンプレックスを持っていたが、7月の公認大会で失権するまで止まることを知らず、突っ込んでもバカッ飛びをして何とかやり過ごしてきた。(中略)障害を飛んでいればいいという素人考えで、安心していたのだ。」</p>					
		秋	前野担当	前野	
8歳	2004年	8月	北日学 総合失権		
調教報告抜粋				前野	
<p>「ヤスはバスキュールが悪く、特にオクサーになると障害に突っ込んで飛ぶ感じがあった。また、物が入った障害も同様でそのために幅のある障害が苦手である。垂直障害は馬の能力でこなしてしまうが、オクサーのように幅のある障害はどうしても不安がありました。その点が一番気になったので、コンビネーションをやってオクサーの飛びを教えられないかと思い、ひたすらコンビネーションをやりました。」</p>					

		秋	前田担当	前田
9歳	2005年	6月	道大会(110cm)	
		8月	北日学 総合失権	
<p>調教報告抜粋</p> <p>「障害に関しては、ヤスは力があって飛越能力は高いがバスキュールが悪いという欠点を持っていました。だから、障害に関してはバスキュール改善を課題として行いました。バスキュールが悪いのは、障害をあせって飛んでしまうからで、つまり楽に障害を飛べるようにすることを大原則としました。(中略)ただし、これが経路走行でできないのは、やはりフラットワークが出来なかったからです。障害を飛んだ後、立て直して次の障害に向かう、をスムーズに行うためには、普段からそういったフラットワークが出来るようにしておかないと経路全体のリズムが壊れ、だんだん飛びも悪くなるということになると思います。」</p>				
		9月	林担当 道大会(110cm)	林
		10月	OB戦・山下杯(110cm)	
10歳	2006年	5月	半澤杯複合(110cm)	
		8月	道大会(120cm)	
			北日学 二走失権 総合失権	
<p>調教報告抜粋</p> <p>「コンビネーションではゆったりと馬を飛ばせることを意識しました。ヤスは体を硬くして、着地のときに頭を上げる癖があるので、リラックスさせることが大切です。(中略)まだまだトリプルをスムーズに抜けるには馬も技術不足のような気がしました。これは、先にも言った着地で頭を上げる飛び方にも関係しており、現時点での最大の課題であると感じています。(中略)「飛越能力はあるが、飛越技術がまだまだ足りない」というのが終わってみての正直な感想です。」</p>				

ヤスに関しては林の調教報告にあるように「飛越能力はあるが、飛越技術がまだまだ足りない」の一言に尽きる。オクサーの飛び方が悪くて馬自身苦手意識を持っており、それが原因でダブルやトリプルを抜けられないことが当初からの課題である。ヤスの不幸は飛越能力があるゆえにまだまだ実力不足なのに大きな期待を背負わされ、早々と北日学デビューさせられてしまったことである。もし、私が担当した2年目のシーズンで北日学を目指さずに100cmクラスをこなし、その中でオクサーの飛びを改善し苦手意識をなくす努力をしていれば、その後の調教はずいぶん楽になっていたのではないかと思う。調教初期においてボタンを掛け違えると、後々までなかなか直すことが出来ないのである。

昔聞いた話だが、日高ケンタッキーファームで指導者としてアメリカから呼ばれたマギー・ライト氏は新馬を育成するのに、普段は 130cm の障害を飛べるような馬でも試合は小障害クラスからなかなかレベルを上げなかったそうだ。彼女が育てた馬は、その後牧場の子供たちを乗せて長く北海道で活躍した。

ある程度素質のある馬なら、100cm クラスまでは 2、3 年で到達できる。しかし 100cm クラスから 110cm クラスへの移行に大きな壁があるように思う。ひとつは障害のボリューム、特にオクサーのボリュームが数字以上に大きくなること。それと、連続障害が入るなどコースの難易度も格段にアップすること。さらに物も入ってくる。馬にとっては相当難易度が上がる。100cm クラスまでは止まることをまだ知らない新馬がその素質だけでクリアすることが出来ても、110cm クラスではそうはいかない。前田の調教報告にも書いてあるようにフラットワークによる調教で、走行中手の内から外れず、常に一定のペースで肩を張ったり内側に刺さってくることなく経路を廻れること。馬が急がず無理のないバスキュールで障害を飛越できる状態になっていること。そして一番重要なのが、馬が経路走行に対してある程度余裕を持っていること。これらをクリアしていないと、クラスを上げていくうちに必ず後からぼろが出てくるものである。

北大馬術部では新馬育成が急務となっており、素質のある馬は出来るだけ早く仕上げたいという意思がどうしても働いてしまう。でもそんなことは馬からしてみれば関係のない話である。彼らには彼らの成長するペースというものがある。期待を背負ってそれ以上の成長ペースを求められれば、新馬はつぶれてしまう。今新馬の調教を担当している人には、その馬の改善すべき点は何なのかを見極めて、そこにじっくり腰をすえて取り組んでもらいたいと思う。

ヤスも、前野・前田・林と歴代主将の地道な努力のおかげで 120cm の経路も帰ってくるまでに成長したようだ。しかし、昨年全日学を見る限りではまだまだオクサーに対する苦手意識が抜けていないようである。一度植えつけられた苦手意識というのはなかなか克服するのは難しいであろう、とにかく焦らないことである。ボリュームを抑えた経路や野外馴致でたくさんの経験を積み、自信をつけさせていくしかないだろう。

以上、思いつくまでに書いてきました。札幌を離れてもう何年もたつので間違った解釈をしていることもあると思いますが、その辺はご容赦ください。

今後も微力ながら東京から北大馬術部を応援しています。部員の皆さんがんばってください。

◇北海道大学水産学部馬術部◇

主将：池谷雅史

「活動内容」

北水馬術部では JRA 函館競馬場乗馬センターにおいて競馬場の先生方のご指導のもと、平日は学生だけで朝に、土日祝日は一般の方・少年団と共に練習を行っています。

現在部員数 18 人(4 年 8 人、3 年 10 人)で活動しています。部として馬を所有しているわけではないので練習は基本的には自由参加なのですが、部員それぞれが少しでもまくなろうと毎日真剣に取り組んでいます。プロの指導を毎日受けられるというのは本学にはないメリットであり、幸せなことだと感じています。

最後になりましたが、今後の北大馬術部のさらなるご活躍を部員一同、心より祈っております。また、水産も本学に少しでも追いつけるように精進いたします。これからもよろしく願いいたします。



「活動報告」

平成 19 年度の主な活動をお伝えいたします。

4 月 春合宿 at 函館競馬場

岩大招待試合：岡村（4 年）、池谷（3 年）

5 月 半澤杯：工藤（4 年）、寺野（4 年）、笠原（4 年）、岡村（4 年）

6 月 代替わり

7,8 月 函館競馬開催

9 月 夏合宿 at 函館競馬場

10 月 移行生入部

モモセダービー：池谷（3 年）、新庄（3 年）、木村（3 年）、樫木（3 年）

12 月 競馬場ミニ大会 クリスマスカップ

乗り納め

中古車と整備

民間車検工場

株式会社 **北大モータース**

札幌市北区北 18 条西 5 丁目 1-36 ☎726-1526

◇卒部に当たって◇

● 住江 康晴（前主将、獣） ●

最上級生になった時、自分たちの代は良くも悪くも何もなく卒部するのではないかという予感がありました。しかし、やはり予感なんてものはあてになりません。馬術部に入ってからいろいろあり、つらいこと、大変なこと、楽しいこと、嬉しいことを経験してきましたが、最後の年は特に様々な、大きな出来事がありました。人生波乱万丈で、いつどこで何が起こるかわかりませんが、そんな人生の1ページを馬術部で過ごせ、馬がめぐり合わせてくれたたくさんの人の輪は、これからも僕も貴重な財産になると思います。

先輩、後輩、OBの皆様、馬術部を囲む多くの関係者の皆様、馬術部で一番長きをともにしたドンパの谷山、函館に移行した池谷と工藤、そして部活動を理解して支援してくれた両親、頼りなくて多くの人にご心配とご迷惑をお掛けした自分ではありますが、こんなにも大きな人の輪に包まれて無事卒部することができました。本当にありがとうございました。

- やわらかい声ですね。
- 記録より記憶。
- 頼りなさそうで実はすごく頼れる存在だった気がします。
- 遅刻のときのため息が…
- 馬といる兄は幸せそうでした。
- お疲れ様です。

● 谷山 直美（前馬匹、農） ●

馬術部での3年半は、とても長かったし、短かった。

辛かった。楽しかった。

いっぱい泣いた。いっぱい笑った。

辛くて辛くてどうしようもないときもあったけど、今となっては全部ひっくるめて「よかった」って思える。

北大馬術部に入って、続けて、本当に良かった。馬を教えてもらったこと、いろんな力がついたこと、そして何より、大切な“仲間”ができたこと…

特に、入部当初9人いたドンパも最終的に2人だけになってしまっ、大変だったこともあるけど、ドンパの退部も馬術部を続けていく上で乗り越えるべき壁の一つであると思うし、2人しかいないからこそできたこと、よかったこともたくさんある。ありがとうね。私は私の代でよかったです。

先輩方、ドンパ、後輩のみんな、関係者の方々、そして馬たち、いろいろとお世話になりました。本当にありがとうございました。

- パワフル。
- 小さな巨人。
- いやし系です。
- 初めてカラオケいったらびっくりしました。
- もっと早く出会いたかった。
- 目覚ましの西暦を間違っって遅刻した。



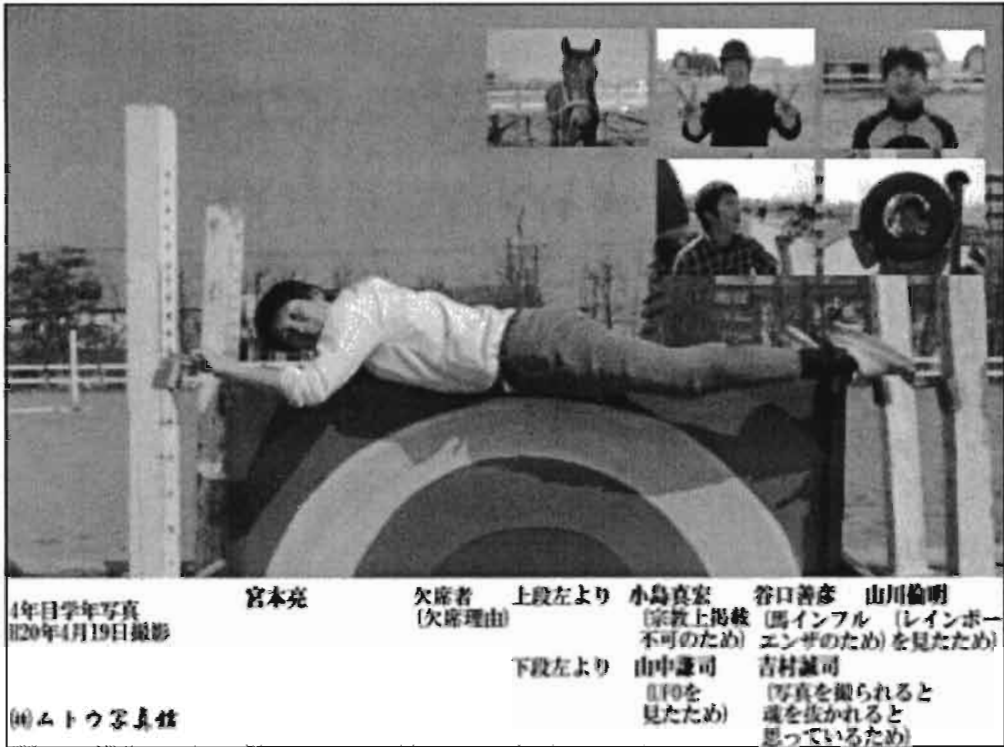
住江兄と北遥号



谷山姉と北柊号

◇部員紹介◇

3年目



中央 宮本 梓内 左上より 小島(北遥) 谷口 山川 下段 山中 吉村

● 宮本 亮 (主将・獣医) ●

去年は結構単位をとれました。二年のときの単位ですが…。

- ちゃんとオーラ出てますよ。いつも考えてますよね。
- 北大が誇れないただの変態
- 主将になって失いつつある威厳の復活を。
- 主将になってもキモい。
- 冗談と本気の境目が未だに分かりません。
- 一時に優しく、時に厳しく、時によく分からない馬術部の顔。

● 小島 真弘 (会計・経済) ●

やっと「小島」と呼ばれるのに慣れました。

- 貫名党幹事長
- 優しい。作業たくさんする。面白い。すごくスキ。

- モモチキを食べているとき幸せそうです。
- 作業にひたむきな態度に心打たれる毎日です。
- オービスには注意してください。
- 上ラン姿で夜のデリカを運転していた姿が忘れられません。

● 谷口 善彦（北日幹事・バイト・農） ●

今年は笑顔を絶やさず頑張ります。

- 滋賀県立膳所高校の誇りであり象徴。
- 存在感がありすぎます。
- ノリは軽いけどすごく考えている人です。
- ネタしかしゃべったことないです。
- 全国九位の実力
- 北大が誇る北日本のエース

● 山川 倫明（主務・経済） ●

毎日馬と触れ合ってきて、最近、ようやく自分なりの馬との接し方がわかってきた気がします。今年目標はコンビを組んでいる馬たちと、他の人には踏み込めない、自分たちだけの世界を築きあげることです。最後の1年を楽しみたいです。

- 一年生に慕われている。
- 貫禄でてきた
- 3年の中では一番怖い。鬼主務。
- 厳しいけど馬術部を大切にしている気がします。
- アークスでよく見かけます。
- 7週間にも及ぶノーザン合宿お疲れ様でした。

● 山中 謙司（後援会・工） ●

あっという間に最後の年になりました。残り少ない馬術部生活ですが、がんばります。

- 君には恋の話はないのかい？
- ロンハー泊まり

- 鼻高いですね。コアラっばいです。
- またトルに会いに行きたいです。
- 打倒眠気！
- 中京の鬼。

● 吉村 誠司（馬匹・獣医） ●

最近勉強に目覚めました。でも授業では起きれません。

今年、自分で面白かったと思うこと。

家の洗濯機が壊れて、授業に遅れそうだったので「代筆しといて。」と送りました。すると「コメント何かいとく？」といわれたので、「今日実についてない（教室に着いてない）って書いといて。」と送りました。イマイチですみません。

- ギャグばかり放っていた彼も今や立派な全日ライダー
- カンニングの天才（良い子はまねしないでね。）
- 兄の小さな行動に一喜一憂します。
- だんだんキックしんどいです。
- 威厳が出てきている。
- 馬券購入のノウハウを教えてください。
- 少年の心を忘れてないですね。

ジンギスカン・季節鍋の店
コンパ大歓迎！！

元祖 義経

札幌市北区北7条西5丁目
011-716-6801

2年目



左から 田中 真田 村木 野村 武藤 斎藤 内山

● 内山 知（蹄鉄・飼料管理、農） ●

二十代に入り、体に歳を感じ始めました。

- 態度だけは上級生
- ピョピョ
- 競馬で内山が買った馬はとりあえず消し
- 意外にこだわりが強いです
- たまに可愛いですね。
- よくほくそ笑んでいる。

● 斎藤 孝洋（車輛・衛生、文） ●

昨年は迷惑かけ通しでした。今年は馬術部員として役立つ人間になれるように頑張っていきたいと思います。

- 天狗
- 部に君がいてよかった。
- 人柄の良さは尊敬するしかありません。
- 一回りも二回りも成長している。（腹が）

- 常に他のくいしん坊部員にお弁当を狙われている身です。
- シロクン乗るときなぜかあぶみに右足かけた

● 真田 有貴（記録、水産） ●

減量します。

- 笑顔のときの方がステキです。
- 今年こそは一緒に卒部しよう。
- また夕当まで在六花亭したいです。
- 冷蔵庫なしだったのはすごいです。
- そろそろ堪忍袋の緒が…！
- こうなったら4年間一緒にやり遂げませんか？！

● 田中 里枝（衛生、農） ●

どじです。とりあえず四角いアタマを丸くします。勉強頑張ります。

- 一年生は君を恐がっているらしいよ。
- 坐骨！
- ステキな姉です。厳しさは優しさやと思ってます。
- おいしいお菓子を作ってきてくれます。
- 前進氣勢にあふれてますね。
- 美白。

● 野村 基惟（副将、獣医） ●

チームを信じ、愛馬を信じ、そして自分を信じ、今年も平常心で頑張ります。

- イケメンキャラ薄れる。
- 目指せ！シンコウと共に全日！
- 実はけっこうこり症ですよ。
- 趣味は筋肉の維持です。
- キャラ変わった。クフゥ！と笑うようになった。
- かつこいい。

● 武藤 将充（大会関係・部報、工） ●

休部してたら死にそうになったので無理やりもどってきました。

- まさにKY
- 貫名党入党
- 腰痛持ちだが馬（または斉藤）に乗っているときは感じない。
- 叩かれると本気で痛いです。斉藤さんの眼鏡壊さないでください。
- 新雪の時期は近くにいと危険
- 馬術部一の細さ。横から見ると紙人間のよう。

● 村木 泰子（ホームページ、獣医） ●

最初はただ馬のそばにいられるのが嬉しくて入った馬術部。楽しいことばかりじゃないけど、今も充実してます。

- 意外にボケにのってきってくれる。うれしいです。
- 最近おもしろ発言が続出。
- 強い人です。
- ちょろいです（笑）
- 乙女
- へたな男より漢っぽい。



ポリューム満点!

コンパ予約受付中

コンパ150名様OK!
当店誕生日、御利用の方には
カラー写真・粗品を
差し上げます。

焼鳥 居酒屋 きよた

札幌市北区北17条西4丁目
☎(011)747-7000

1年目



馬上:綾部 上段左から:鎌田・岩野・伊藤・山本 下段左から:海道・出戸・清田

● 綾部 美晴 (大会関係・部報、理) ●

エクセルぐらい使えるようになりたいです。

- しっかりしてる。お母さんの存在。
- 勝手に料理がうまいイメージがあるかも。
- 落ち着いています
- 天然なのかポーっとしているのかわからない
- 行動がおっとりしている
- 天然1

● 伊藤 海 (企画、水産) ●

オフサイドトラップを仕掛けるタイミングだけは誰にも負けません

- うざい。私は朝青龍じゃない。
- Dがないエース
- いいやつだけど時々うざい
- 4年間がんばって

- あと3年がんばって
- 4年まで札幌に残るみたいです

● 岩野 公美（大会関係・部報、獣医）●

馬術部に会えてよかったです。自分を押し殺してでも続けたいです。

- ぼーっとしてても頑張り屋
- スープカレー中毒
- 金持ちキャラ
- 経路周りでもなんでもいつも笑みを浮かべています
- 北大の至宝。天才。
- 天然2

● 海道 磨里（ビデオ、獣医）●

頑張ります

- 疑いようのない頑張り屋
- 大物だと思う
- 食事には厳しいが自分には甘い
- 途中入部だけどやる気は伝わってくる
- 天然3
- 何事もテンパることなくいきましょ

● 鎌田真由美（薬品、獣医）●

馬術部に入って心身共に強くなりました。

- 木曜泊りがひそかに多い。
- 馬術部唯一のかわいいキャラ？
- 自称かわいいキャラ
- マザコン
- 意外とまとも
- 他のおとぼけ一年女子に囲まれ大変そう

● 清田 雄平（作業、理） ●

頑張ります。

- 「そうかもしれないっすね（笑）」
- 坊主がカワイイ
- 手玉にとりやすい
- もう入部時の髪型が思い出せない
- すでにOBの風格
- きよていー

● 出戸 裕人（飼料、理） ●

馬術情報を読破しつつ。目標はELLEN WHITAKER

- 園児好きだけど頼りになります。
- 馬術部の未来は君にかかっていると思う。巻き乗りしないでね。
- 期待のエースにしてリアクション王。
- 出戸先生。
- 常にウケ狙い。
- ノリの軽さはTロさんを彷彿とさせます。

● 山本 栄輔（馬具、獣医） ●

馬術部に入ってよかったです。

- 彼の中では少し時間の流れがゆっくりしてる
- 箱番の苦しさから目がタレパンダ化した
- 天然
- 頭良いんだか悪いんだかなぞ
- どこかぬけてるけど、いい人です。
- お互いあほはあほなりにやるしかないね。

ノーザンホースパーク

新千歳空港より無料送迎有り

K's Garden

〒059-1361 苫小牧市美沢 114-7

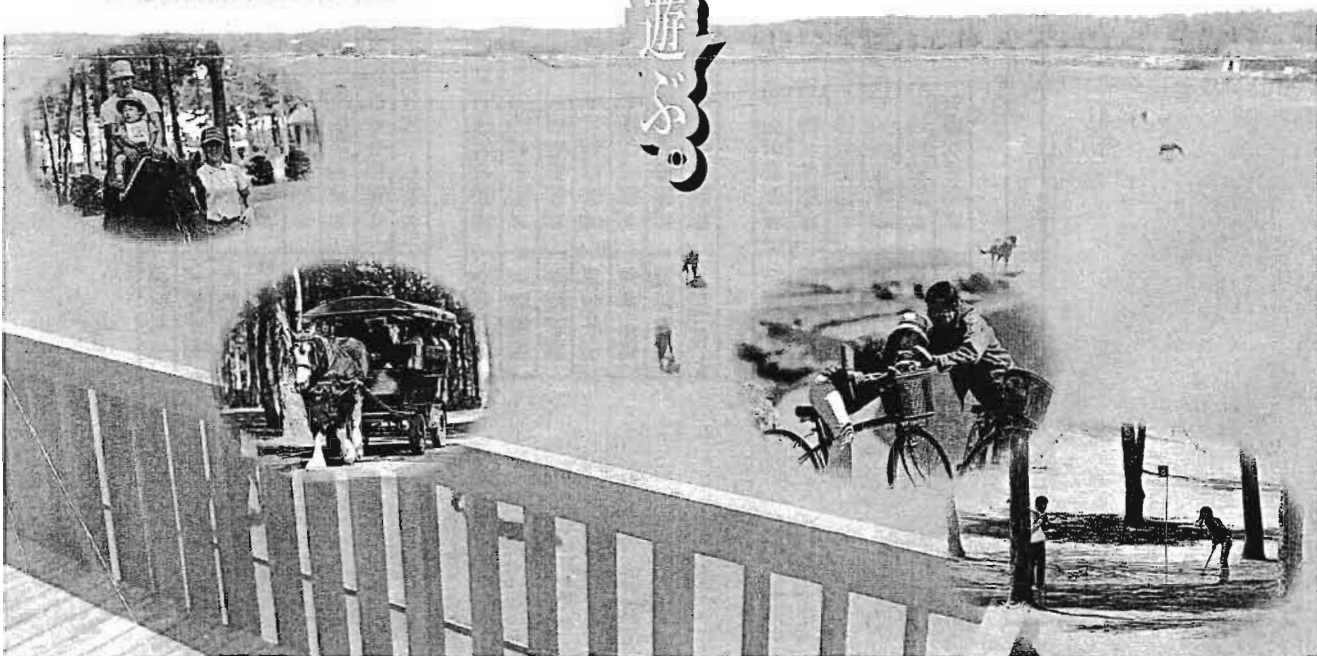
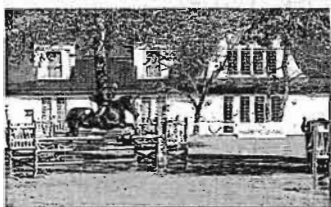
TEL 0144-58-2116 FAX 0144-58-2377

www.northern-horsepark.co.jp/



こころ潤す

季節と遊ぶ。





時代の大きな転換期を迎える中、酪農・畜産分野においても
効率だけでなく、安全な生産物の提供、
地球環境への配慮が求められています。

当社は設立以来一貫して、良質の飼料と優れた飼養管理技術の提供を通じて
豊かな食生活の向上に貢献しています。

明治飼糧株式会社

〒130-0021 東京都墨田区緑1-26-11 明治乳業同和ビル6階

【リクルートニュース(応募資格確認済)中】

●職種/営業 担当エリアにおける農家・畜産農家の自社営業促進、コンプライアンス的対応等、毎日日々、日々の業務を担い、おもしろい仕事です。●現任給/大卒170,800円、修士224,000円 ●休日/年休111日 ●先職/前職/出身校/昭和39年、北海道札幌(北)大学(昭和57年、北大農学部卒)の出身で、現在も活躍しています。●企業/日本、歴史はあり、誇り、情熱、新しいです。農畜業人にとっては、最高の会社です。

【連絡先】札幌市中央区北4条東2丁目8-2 マルイト北4条ビル 8F 明治飼糧 札幌支店 TEL 011-261-9141

北大生協は

北大馬術部を

スポーツ用品の
ご注文は生協へ!!

応援しています

チームウェア等
オーダーマーキングも承ります

北部店

購買部
スポーツコーナー

電話:747-2181 FAX:716-9886
大学内線:5424



北海道大学生生活協同組合 〒060-0808 札幌市北区北8条西7丁目

<http://www.hokudai.seikyou.ne.jp>

<広告主への感謝の言葉>

この度、平成18年度北海道大学馬術部部報発行に際し、絶大なるご援助をいただきました諸社・諸店に対し、厚く御礼申し上げますとともに諸社・諸店のご繁栄を心より祈り、ここに深く感謝いたします。

編集後記

部報は本来4月初頭の発行を目指すべきものですが、例年通り今年もこのような時期になってしまいました。来年度こそはもっと早く部報をお届けすることが出来るよう、早めに取り掛かろうと思います。

平成19年度は幾度となく部員を全日に連れて行ってくれた北旋風の離厩がありました。離厩特集に関して、お忙しい中ご協力して下さったOBの皆様にお礼申し上げます。

また、OB寄稿にご協力して下さった近藤さん、木村さんをはじめ、原稿執筆や広告集め、その他様々な編集作業で協力してくれた現役部員に心から感謝しております。

武藤 将充
綾部 美晴
岩野 公美

北海道大学馬術部部報

部 報 第53号

平成20年 6月発行

編集者 北海道大学馬術部部報担当

武藤 将充
綾部 美晴
岩野 公美

印刷所 北大生協 印刷・情報サービス部

〒060・0808

札幌市北区北8条西8丁目

クラーク会館1階

TEL 011・747・8886

FAX 011・757・7971

発行所 北海道大学馬術部

〒001・0023

札幌市北区北23条西12丁目

TEL・FAX

011・737・1626

